

生活破壊に労働者の反撃を！

「港地域メーデー」みなと通にシユプレ高く

「万国の労働者は団結しよう！」「生活破壊のアベノミクス糾弾！」。五月一日朝、みなと通に力強いシユプレコールが響きました。第八十四回「港地域メーデー」の行進です。主催したのは全国金属機械労働組合・港合同（南市岡3）。港区を中心とする中小企業労組の集まりです。これに「平和と福祉」を掲げる「NPOみなど」や一般市区民も合流、合わせて約三百人が沿道の人々に「働く者の団結と闘い」を呼びかけました。

アベノミクス・原発・改憲・労組攻撃などに警鐘

◆伝統守り独自に開催

メーデーは八時間労働制を闘い取ったアメリカ労働者のゼネスト（一八八六年を起源として

いますが、その戦闘的な歴史と性格を薄め、メーデーを単なる「お祭り」にしよつとする近年の傾向に警鐘を鳴らすため、港合同は十八年前

から独自の「地域メーデー」を催してきました。今年は一ーマンションクから東日本大震災（みやが）から原発災害へと続く庶民生活の未曾有の苦境に加

え、「アベノミクスで景気回復」との宣伝の裏で貧困と格差がますます深まり、平和憲法や労働運動への攻撃も厳しさを増す一方、「負けてたまるか」と労働者や庶民の怒りと反撃もかつてなく高まる中での開催となりました。



→「万国の労働者は団結しよう」「生活破壊に反撃しよう」とシブレットコールをあげながらみな通を行進する労働者＝5月1日朝

◆団結と闘いこそが情勢ひらく

午前十時から入舟公園（八幡屋）で開かれた集会では、司会の港合同・中村吉政副委員長が「全国的には厳しい情勢下にもかかわらず、早めにはメーデー集会を済ませるなど労働側の姿勢は低調だ。しかし、地域では南労会闘争など個々の争議が前進し、歓びのメーデーとなった。労働者の団結と闘争こそが情勢を切り拓くことに改めて確信を持つ」と呼びかけました。

◆苦しい労働者を組織しよう

港合同の原田執行委員は「基調報告」の中で、①安倍政権の経済政策「アベノミクス」は民営化と規制緩和の小泉「構造改革」路線の一層の促進であり、株高や田安で一部資本家を潤す一方、労働者・庶民には物価高や消費増税で賃金破壊・雇用破壊・生活破壊しかもたらさない②自民や維新が狙う憲法九十八条の改定（憲法改正の発議条件を「衆参両院の総議員の三分の二以上の賛成」から「過半数の賛成」に緩める）は九条改憲に狙いがあり、国防軍の創設、個人の権利制限、労働者の権利否定へと繋がる③大阪府労働委員会から「不当労働行為」であると

認定され、謝罪と救済を命じられた「職員アンケート問題」など、橋下市長による一連の労働者敵視行為は、単に大阪市職員だけの問題ではなく、全労働者の団結権への攻撃である」と国内情勢の特徴を簡潔に示した上で、「こうした中で苦しんでいる無数の労働者を組合へ組織するため、一層奮闘しよう」と呼びかけました。

◆働く者の医療の再建へ

また港合同南労会支部の代表は、松浦診療所（弁天）を舞台にした二十一年間の争議が「勝利的和解」という形で一段落したこと（前号既報）について、①「働く者の医療を取り戻せ」と訴える組合員と、儲け主義と組合敵視に走る経営者が対峙してきた②解雇撤回は得られなかったが労働者の団結権と地位向上を掲げて闘い続けたことに社会的意義があった③港合同の指導と全国の支援がなければこの勝利は得られなかった④闘争の中で介護事業を立ち上げて新たな闘争拠点を築いたことは勝利に大きく貢献した⑤働く者の医療の再建へ向けて和解のあとまなお闘いは続く」と強調しました。

◆反戦・反基地・反原発

「その他、NPOなどの代表は「安倍政権の経済政策」や「国民・維新の改憲策動」や「原発再稼働」の危険性を、朝鮮総連西大阪支部の代表は「朝鮮半島緊迫化の原因は米韓演習」にある」ことを、それぞれ訴えました。

最後に「団結こそ命、闘いこそ力」「人類の未来のために原発はいらない」「橋下市長の団結権破壊攻撃を許すな」「反戦・反基地・反原発の闘いを推し進め、闘う労働運動の復権に向けて奮闘しよう」などと呼びかける『メーデー宣言』が拍手で採択されました。

集会後、参加者はみなで通へ繰り出し、東へ向けてデモ行進。沿道の住民や通行人に「労働者の団結」「生活破壊への反撃」を呼びかけるビラを配りながら、「日米安保条約反対！」「フメリ力は核も基地もオスプレイも持って帰れ！」「平和憲法を守ろう！」「TPP反対！」「原発を再稼働するな！」「橋下市長の組合弾圧を許さないぞー！」などのシュプレヒコールを連呼。そのあと南市岡の田中機械構内で交流会を開き、親睦を温めました。

◆橋下市長の組合攻撃許すな

↑5月の空の下、闘う労働運動の息吹が溢れた「港地域メーデー」。上は入舟公園での集会下はみなと通を進むデモ行進



鉢巻きとゼッケンを着け、日焼け止めクリームを顔に塗って集会に加わっていた小林紀子さんは、美空学校（東成区鶴橋）の職員で作る「港合同NRB分会」の組合員。同僚二人と参加しました。「九年前に組合を結成してしばらくは組合員排除の圧力がありましたが、今では落ち着いています。社会では色々な問題がありますが、特に橋下市長の労働攻撃が許せません。やめてほしいと訴えたいです」と話していました。

◆昔の活気をもつ二度

また、入舟公園での集会を頼もしく眺めていた男性（七〇）は「昔ー金属（市岡・福

崎）で働いていましたが、あの辺は昔、全金銀座と呼ばれるほど工場と組合が林立していました。生産活動も労働運動も活発で、労働者としてのつながりも強かった。あの頃の元気を日本は取り戻さんといかん。

また、みなと通でデモ行進を眺め、ビラを受け取っていた女性（七七）（八幡屋）は「高校卒業から二十三歳まで泉佐野のタオル工場に働いていました。毎年、メーデーでは扇町公園に集まって、それからよく歩きました。あの頃の活気が戻ってほしいです」と話していました。

◆労働相談を無料で受け付け

なお、港合同では、倒産・解雇・賃金不払い・条件切り下げ・サービス残業・労働災害・セクハラ・パワハラなど、労働に関する相談を無料・秘密厳守で随時受け付け、大阪労働者弁護団や関西労働者安全センターなど専門家グループとも連携して問題解決に当たっています。

問い合わせは港合同（南市岡二・六二一、TEL六五八三・四八五八、FAX六五八三・四八〇〇、メール soundann@minato-godo.org.）へ。

あ さ や け

四月は大きな地震が頻発しましたが、とりわけ十三日早朝のM6超には肝を冷やし、改めて防災の大切さを思い知らされました。ただ防災にも当然限度がありますから、常にびりびりして生活の質を落とすよりは、できる限りの備えをしながらも、「来たら来た時のこっちゃ」くらの開き直りが必要ではないでしょうか▼そう言えば、昔の日本人は天災に対して今よりずっと合理的かつ勇敢な態度を持っていたことが、多くの科学者や歴史家から指摘されています。それを外国人の目で賞賛したのが、ポール・バシクの短編『大津波』(一九四七年)でした▼津波で家も家族も失った少年が、友達の家族に支えられて成長し、「ちよつとぐうい遅う死のつが、早う死のつが、大した違いはねえ。だが、生きる限りは勇ましく生きろ」といつ友達の父親の生き様や、「こはやつは最高の浜じゃ。俺たちもまた戻るんじや」と再建に立ち上がる漁師たちの姿を見て、自もも海に向かって家を構え

「俺、海に立ち向かつて生きる。恐がつたりなどせん」と決意するに至るストーリーは実に感動的です。厳しい自然と向きあつた日本人の強さ、優しさ、大らかさが、震災後を生きた日本人に深い示唆を与えてくれます▼といつて、四月の地震フッシュからそんな真面目な事を考へてた訳ですが、一月『図書ガイド』にこの本の紹介を載せていますので、読者の皆さんにもぜひ一読をお勧めします▼それにしてもあの朝、突然の揺れに飛び起きるや、隣で寝ていた筆者には目もへねず、あつといつ間に路上へ飛び出した妻の姿。「津波でんでん」を忠実に実行したといえはそれまでですが、どつちか言つて地震よりそちの方が怖かつたですね。

× × × × ×

「アスヘルガー症候群がここ数年、注目を集めています。『場の空気が読めない』『人の言葉や字句通りに受け取る』などが特徴で、そのため職場や学校で浮いたりトツツたりするやとされていきます。それが『発達障害』かどつかは別にして、確かにそついつ人たちが過去にも一定割合いたことは筆者の記憶にも鮮明ですが、これまででは

それなりに周囲との折り合いがついて、特に問題となることはなかったようです▼しかも彼らの特徴を冷静に見れば、決してマイナスばかりではありません。むしろ常人より善悪に対して純粹であり、正義感も強く、一定の分野では遙かに優れた能力(細かい作業の正確な繰返し、スケールの大きい思考、創作での芸術性など)を発揮する人もいます。有名人で言えば科学者アインシュタイン、映画監督スピルバーグです▼にも拘らず、彼らが敬遠される流れにあるのは、やはり社会の側に問題があるといか思えません。つまり、あらゆる面で競争が激化する中、そつした傾向は「効率化の邪魔」「勝ち抜きレースの障害」と見なされるに至つたのです▼そこで言いたいのは「障害」といつなら、競争を煽る傲慢な米国や財界の顔色は敏感すぎるほどに読めても「トランプ」「原発」「消費税」などを嫌がる庶民の空気はまるで読めない政治家、彼らこそ真の発達障害だといつていいです。違いますやろか▼尤もこんなことを平気で書いてる筆者自身、「発達障害」と診断されるかもしれません、がむしろ光栄なことですわ、ホンマ。

叫びたい！

今月の提言者

尾崎 キヌ子さん（66歳 池島）



動物愛護でも「三」星に

区政運営の更なる向上願って

「港区役所が最高の「三」星」。四月十一日に公表された大阪市全区役所の格付け調査結果を見て、港区民の一人として心から嬉しく思いました。これは、田端尚伸^{（たはたしげのぶ）}区長をはじめとする

職員の皆さんの住民サービスに寄せる思いの強さ、熱さ、誠実さの表われであると同時に、自らのまちづくりに対する港区民の意識の高さの反映でもあると思います。

実際、多少の身びいきが入っているかもしれませんが、港区では区役所職員の対応の質が他の区より高いことはもちろん、街中^{（まちなか）}でも、花や緑が他の区よりも豊かで、「三」は少なへ、この不況の中でさえ人々の表情も明るいように思えます。ぜひともこの街の美しさ、明るさ、温かさ、これから私たち区民と区役所が力を合わせて維持し、発展させたいものだと思っております。

そこで、こうした喜ばしいニュースに元氣を得つつ、区政運営の更なる向上を願って、ぜひとも実現してほしいことがあります。それは「街ね制度」の取り組みの一層の推進です。

◆野良猫の避妊・去勢手術の基盤を

「野良猫の避妊・去勢手術のための基盤を作ってください」。一昨年春から「公園ねこサポート」活動を続けている私が、「人と動物が共に生きられる地域社会」を願ってこんな意見を

投じたのは今年一月でした。これは昨年末に示された「港区将来ビジョン（素案）」へのパブリック・コメント（意見公募）に応じたもので、その内容は大変次のようなものでした。

1、「街ね（制度）公園ね（サポート）制度」を、市と共に区も中心となって存続・発展させながら、これらの制度について広報・看板・放送などでさらに広く区民に知らせよう。

2、市の「街ね（制度）」では行政の関わり（捕まえた後避妊去勢手術をしたりする費用への援助など）を「地域指定した日から六カ月以内」と区切っていますが、所有者不明猫の問題は半年では解決しないので、期限を設けず、区と区民が連携して長く続けられる制度として下さい。

3、大阪市では、健康局が受け持つ「街ね（制度）」とゆとりとみどり振興局が受け持つ「公園ね（サポート）制度」があり、縦割りになっていますが、「街」「公園」と区別せず、地域全体で取り組めるよう、港区では一つの制度として、手続きの窓口も一本化して下さい。

4、「街ね（制度）」では市全体で約二〇〇匹分の避妊去勢手術予算が組まわれていますが、この

手術は面的に集中して行わないと効果がないので、港区では予算を拡充し、その財源を賄うために尼崎市のような「動物愛護基金」を設立し、区民の寄付を募っています。

◆「ピンポイント」で予算を区映るのです

その後、この私の提案を含む約九十件の意見を踏まえた「港区将来ビジョン」(案)や、その実現のための「平成二十五年港区予算」が「広報みなと」三、四月号の紙上に相次いで発表されましたが、その中では特に、私が求めた「街ね」制度「推進や」「動物愛護基金」設立への言及はありませんでした。区政主体のバランスや優先度、また区財政の制約を考へての結果だと察しますが、少なからず残念に思ったものです。

◆人と動物の共生をめざって

私たち「公園ね」サポーターは、ただ動物を排除するのではなく、せっかく生まれてきた命を尊重しながらも増やすことなく、人と動物が共に生きられる社会、動物好きな人もそうでない人も共に気持ちよく暮らせる社会をめざして活動しています。そして『生かすにも殺すにも費用がかかるのなら、ぜひ生かす方に使って

ほしい』というのが、この提案やこれまでの活動を責めたいのです。

◆区予算に負担をかけず

中でも「動物愛護基金の創設」は、「公園ね」サポーターになりたいけど、手術費用の負担がね…」という多くの声を受けての提案であり、実際、尼崎市では既に実現を見ており、しかも区民の寄付に大きく依存することから区予算に大きな負担をかけるものでもないと考えます。区長さんの素敵な呼びかけフレーズである「ええまち、一緒につくりましょう!」の具体化として、また今年度から明確にされた「区長自由経費」「区CM自由経費」の有効活用として、来年度に向けてぜひとも前向きな検討を期待するものです。

◆港区の率先を願う

繰り返しますが、「街ね」制度「公園ね」サポーター制度は「人と動物との共生社会」という崇高な目的を掲げて市が立ち上げたもの。それを形だけに終わらせてはなりません。そのためにもまず「二星」の港区が他区に先駆けてこの問題に取り組む、「動物愛護」の星をひとつきわ

強く輝かせられることを切に願っております。



街ね制度 まち 大阪市が平成二十一年度からスタートさせた「所有者不明ねこの適正管理推進事業」の略称。地域合意のもと、地域に生息する

猫の避妊・去勢手術を行ない、あらかじめ地域で定めたルールに基づいて、住民が主体になって所有者不明猫を適正管理することが目的。「地域指定した日から六カ月以内」が市の手術費用負担期間となっている。健康局が所管。

公園ねサポーター制度 大阪市が平成二十三年度に発定させた「公園ね」適正管理推進サポーター制度」の略称。地域の中でも特にトラブルが目立つ公園での野良猫問題の解決を目的に、「街ね」制度」を都市公園に適用したもの。

研修を受けた市民が「サポーター」となり、①公園の猫に避妊・去勢手術をして増えないようにする ②手術費の約半額を市が助成 ③一代限りとなった猫へのきちゃんとした餌やりで少しずつ数を減らす ④後始末や周辺清掃で公園の環境美化に努める などこの活動を行なう。建設局が所管。

区の防災計画などしる

港区震災対策協がフォーラム



→ 港区の防災計画や防潮堤の現状について学び
合ひ、考え合った「第1回港区震災対策フォー
ラム」は4月17日、港近隣センター

「区の防災計画のポイントをつかみ、防潮堤の現状を確認しておこう」と四月十七日午後、港近隣センター（八幡屋）で「港区震災対策フォーラム」が開催されました。「区民の目線で港区の防災対策を検証しよう」と昨年発足した「港区震災対策協議会」（西原みゆき代表）の主催で一回目。区民約四十人が参加、港区役所や大阪市港湾局の出前講座を聴き、三十間堀川の防潮堤（池島・八幡屋）を視察しました。

◆「港区防災計画」の概要を説明

出前講座では港区役所の担当者が「港区防災計画」の概要を説明。この中で、①土地が低い上に三方を水に囲まれている港区の地勢を頭にに入れておこう②家庭では家屋の耐震化や家具の補強などできることを前もってやっておこう③警報スピーカーは三百メートル離れると聴こえないのでラジオなどを活用しよう④区役所と地域が連携して数を増やしている「津波一時避難ビル」は昨年度末までで四十八になったが、そのビルが分からない時は近くの高い建物に避難しよう⑤マンション内の低層階から高層階への避難を支援する対策も進めている⑥障害者などが避難

できる「福祉避難所」は平成二十七年末までに九カ所の指定をめざしている⑦高齢化の中で中学生を防災の担い手にしよう対策を進めている⑧今年度から各地域に具体化した防災対策が進みつつある⑨耐震化が必要な港区の防潮堤合わせて九・一キロのつち元としているのは三・〇キロだが、一キロあたり三十億円かかるので国に予算要求している一などを強調しました。

◆防潮堤の耐震整備状況を説明

続いて大阪市港湾局の担当者が「港区の防潮堤」について講演。この中で、①防潮堤は高潮などによる最高想定潮位（OP五・二）よりもさらに高くしている②現在の防潮堤は震度五まで大丈夫だが、震度七まで耐えられるよう改修整備を計画している一などを強調しました。

◆質疑応答も

これらを受けて質疑応答が行なわれ、主に次のような取りがありました。

「港区で二回も大雨に遭っている（あ）ので防潮堤の耐震改修に関心がある。三十間堀の防潮堤は老朽化し、満潮時に水漏れするなど相当傷んでいるので心配している」→「調査して実情

をつかみ、適確な対応をしたい」(港濱局)

「水門を閉めると津波が押し返されるなど、却^{かえ}って危ないのではないか」↓「M8までなら閉めないことになっているが、それ以上の場合には検討している」(港濱局)

「防潮扉の電動化を進めているというが、地震で停電した場合の閉鎖はどうするのか」↓「地震発生から一時間以内に人力で閉鎖する体制を既に組んでいる。電動化はその上でさらに迅速化する手段だ」(区役所)

「港区の津波一時避難ビルは四万人分を確保できたそうだが、港区の人口は八万人。対応できるのか」↓「丈夫なマンションの住人など避難する必要のない人もいるので、必ずしも人口分を確保する必要はないが、その上でさらに避難ビルを増やしていく」(区役所)

「要援護者の把握・対応は？」↓「まずは町会の班で対応を。できない時は町会・連合町会、さらには区役所など連携して対応するようになる。できれば(四月)に各地域で発足した地域活動協議会の防災部会や福祉部会で対応できるように進めたい」(区役所)

↑三十間堀川の防潮堤を視察する参加者①
満潮時の水面まで施された外壁補強部分②



「震災時のマンホールからの水の吹き上げへの対策は」↓「持ち上げられない葺^{はら}きなどを始めているが、対策はこれから」(区役所)

「大潮と台風と津波が重なった時の対応は」↓「次のステップとして検討するようになるが、ハード整備については今のところ考えていない」(港濱局)

「防災面で市・府・国がバラバラに対応して防潮堤の構造などにもバラつきがあり予算的にも無駄。統一して対応できないのか」↓「防災施設の整備・管理者を定めた法律の面からそういつ懸念が生じているようだが、防災という点では一本化・系統化されている」(区役所)「そ

の上で連携はしっかりしていきたい」(港濱局)
「港濱局は南港のWTCにあるが、災害時にそこからどうやって「コントロールするのか」↓「港濱局は海岸通にもあり、連携して対応していきたい」(港濱局)

◆三十間堀川の防潮堤を視察

このあと参加者は三十間堀川(八幡屋・池島)へ徒歩で向かい、その防潮堤を視察しました。

この中では「満潮時には地面より水面の方が高くなる。天井川や「第一室戸台風のあとに改修されて五十年以上。老朽化が激しいな」「弱い部分は満潮時の水面の高さまでは補修されているようや」「それでもこの前は水が漏れたので鉄板で再補強してもらった」などの声が聞かれました。

終つて後、参加者の中原恵子さん(七三)〔築港、濱田安子さん(六三)〔池島)は「防災計画や防潮堤について詳しく説明してもらい、勉強になりました。家員の固定など前もって個人でできる対策をしておく重要性も感じました。四月十三日の地震は刺激になり、いざという時に慌てないよう、普段からこうして学び合おう」との積み重ねが大切だと思えます」と話していました。

心の交流

池島一・勝部泰臣79歳
（かつへやすおみ）

家人に不幸があつて、このひと月、書類作りに追われた。気持ちが滅入^{めい}つているところへ苦手な書類書き。そんな時、救われた気持ちになったのは区役所の各部書の担当者の対応の良さだった。今にして思えば、気持ちをほぐされたのは私だけではなかったのだ。大阪市が窓口サ―ビスを覆面調査^{ふくめん}して、我が港区が星二つで他区を一步も二歩もリードしたのを、テレビ・新聞で知つて、素直に喜んだ。

豊かな社会とはいえ、人と人との心の交流など無きに等しい今の時代。電車の中で我が子よりスマホに夢中になつてゐる呆れた若き主婦を見て、嘆かわしく感じる年寄りは私一人ではない。先の短い老人には、人の親切、思いやりが一層身に沁みるものだ。

区役所の対応の良さを共に喜びながら、港区民みんなが人間らしい心の触れ合いを持続けられたらいいのになあ。

難病の少女の姿に励まされた！

市岡元町・50代男性

「優しく逞^{たくま}しさを示した十五の春」（前号1頁）に励まされました。私自身、体と精神に障害を持つ身で、障害年金で生活していますが、日々の生活の中でちよつとした嫌なこと（知っている人が道で知らん顔をするなど）にぶつかると、すぐ気が滅入^{めい}つて、消極的な時間を過ごしてしまいます。また気を取り直して頑張ろうと思いますが、長く続くことはありません。そんな繰り返して生きてきましたが、ネットでこの記事を読んで、自分よりもっと大きな障害先天性筋ジストロフィー^{きんしん}を持った少女が同い年の中学生と交流を持ちながら支援学校で学んでいる姿に、自分の弱さが恥ずかしくなり、「これから少々のことがあつても、明るく、優しく、たくましく毎日を送るぞー」と決意しました。とはいつても、まだ落ち込むことがあると思いますので、その時はまた、この女の子のことを思い出して、頑張り直したいと思います。とてもいい記事をおりがついでにみました。

いまどきの中学生、見直した！

弁天・70代女性

いつもリアルな地域情報を楽しみながら読ませて頂いています。四月号では「優しく逞^{たくま}しさを示した十五の春」（前号1頁）が良かったです。難病の青島野花^{あおしまのばな}さんも出席した卒業式の様子、中でも車椅子^{いす}の野花さんを囲んで歌つ写真には涙が出ました。いまどきの中学生は受験競争に精一杯で、友だち関係にもドライだと思つていましたが、とても熱い友情や思いやりを持っていることが分かり、心洗われました。素晴らしい記事に感謝しています。毎月の取材、大変でしょうが、これからも地域に密着した記事を届けて下さい。僅かですがカンパ同封します。

「赤バスありがと」の記事に希望の光

市岡元町 会社員男性57歳

先日、「赤バスありがと」の記事（前号1頁）を読みました。前には存続を希望する意見や、「二度弁天町発の赤バスに乗って下さい」などの記事を読みながら何もできない自分にもどかしさを感じていました。しかし今回、存続

までではないが、まずは「青バス」として再出発している記事を読み、庶民の力の可能性にとても大きな希望を抱きました。

この記事を書こうと思ったのは、私の古い友人の親御さんのごことを知ったからです。その人の言葉に、「赤バスがなくなつてから（親御さんが）移動手段に困難を極め、心身の疲労から極度の鬱状態に陥った。その病状が悪化して今回の事態（緊急入院）が生じた」とありました。私の母親は幸い老人ホームに入居していますが、背骨がやられていて移動にタクシーはさすがにく、ホームの移動車でないときなところへいけません。ましてや（自宅におられる方は）日常の生活が大変であり、いつ何時私の友人のような事態が生じるかわかりません。

だれもが一生自由に豊かに暮らすことができれば、行政は要りませんし、まして税金など必要ないでしょう。それができないからこそ、お金（税金）を出し合い、行政を通じて互いに助け合っているわけです。そんな中で、行政の施策に頼るのでなく、庶民の側からバスの存続を実現させたのは、他区への大きな励みになると

思います。存続はまだ一年のみで、その後の事態は予断を許しません、とても希望を抱いた記事でした。

素晴らしい料理人インタビュー

（都島区・40代男性）

ネットで毎月読ませてもらっていますが一な「わの名」に輝いた至田大祐さんへのインタビュー記事（前号まで二回連載）は素晴らしいです。特に後半の、日本料理の魅力、難しさと楽しさ、究極の目標と続くハイレベルの料理問題には「さすがにその道の第一人者の言葉は違つな」と唸つされました。中でも「単



↑読者の作品から「悦子さん

（田園町3）の絵手紙

なる金儲けではなく、世のため人のために役立ち、喜んで頂く。そついつ人づくりこそが、日本料理人としての究極の目標でなければならぬ」は感動ものでした。私は宝飾関係の仕事で自営していますが、この言葉はまさに宝のように思われ、分野は違つても、仕事への姿勢という点で大いに学ぶところがありました。記事への感謝を込めて、感想を送らせてもらいました。次号も楽しみにしています。

「ヤッポ」の人生に引き込まれた

（二先・60代男性）

「貫いた一匹狼 画家」と題した岸本安司さんの追悼記事（前号32頁）に引き込まれました。祖父母や叔父叔母の世話になった青少年期や保健所勤務でのエピソードはどれも面白く、何度も笑ってしまいました。師と袂を分かつて自分流の画風で描くようになった顛末もユニークで、「この人は本当に一匹狼やったや」と感じしました。こんな楽しい追悼記事もないかと思つと同時に、港区からまた一人、味のある人物が消えたことを残念に思いました。

「よりよい学校」つくりへ熱気

港区PTA協議会が研修会



「よりよい学校」つくりのため、共に学び合ひ、活動水準を高めよう」と今年も二月十二日、港区民センターで「港区PTA地域教育活動研修会」が開催されました。各校PTAの役員らが参加し、それぞれの担当分野の講演に耳を傾けました。港区PTA協議会（山本慎一会長）が主催、大阪市PTA協議会、大阪市教育委員会、港区役所が後援。

◆広報活動にアドバイス

全体会では山本会長が「研修を通じてPTA活動の質を向上させましよう」と参加者へ呼びかけ、大阪市PTA協議会と港区役所からは激励のあいさつがありました。そのあと、①広報活動②成人教育③青少年活動④人権啓発活動⑤学級活動（小学校）⑥学級活動（中学校）の六テーマに分かれて分科会が行なわれました。

このうち「広報活動のあり方」分科会では、大家久彦・築港小学校PTA会長を座長に、橋本誠・築港小学校校長を助言者として、本紙代表の飯田吉一が、三十数人の広報担当者前に「よりよい広報紙」つくりのために、地域新聞発行の経験から」と題して講演しました。

「よりよい広報紙」つくりへのアドバイスが行なわれた「広報活動」分科会⑤と、粘土作品つくりを体験した「成人教育」分科会⑥



この中で飯田代表は、まず各広報の紙面を個別に講評。「素晴らしい点」として「記事内容が充実しており、編集者の努力が伺える」「写真の表情が生き生きしており、カメラマンのセンスが感じられる」などを、「改善すべき点」として「機械的な見出しに内容的な見出しを加える」と「インパクトが増す」「写真に説明を添えたら写真が生き生きする」などをあげました。

その上で、全体的なアドバイスとして、①紙面を見やすくする（内容見出しで引き付ける、写真説明で写真を生かすなど）②記事内容を整える（5W1Hを基本に、記者の体験や感想

→「よりよい学校」つくりへ共に学び合ひ、と

の熱気が溢れた港区PTA協議会の研修会

2月23日、港区民センター（写真は全体会）

も入れて生き生きした内容に「なご」③記事の幅を広げる（地域愛を育む地域史なども扱う、学校選択制など難しいテーマも取り上げるなど）④発行の原点に立つ「よりよい学校づくり」という目的を忘れない、PTAの目標や校訓を掲げる「なご」の四点を挙げ、「発行」に学校の歴史を綴っていることを意識し、百年後にも残る広報紙に「この激励で締めくくりました。また橋本校長は「写真や個人名など個人情報扱いは慎重に」と助言、大家会長は「何より自分たちが楽しんで広報づくりを」と参加者を激励しました。



→携帯電話の安全な使い方を学んだ「青少年活動」分科会④と、認知症についての理解を深めた「人権啓発活動」分科会④

参加したある広報担当の女性は「写真説明を入れる、主見出しと副見出しの二段構えにする」など、ちょっとした工夫と努力で紙面がかなり良くなるのが分かり、有意義でした。このうちの一つでも二つでも次に生かしたいです」と話していました。

◆携帯電話や認知症もテーマに

このほか、「成人教育活動のあり方」分科会では久場みどりさん（フレイ教室主宰）による「樹脂粘土による作品づくり」体験が、「青少年活動のあり方」分科会では宮澤さん・樋口さん（N.T.D「モ・ケータイ安全教室講師」による「携帯電話の安全な使い方」についての講演が、「人権啓発活動のあり方」分科会では杉山清美さん・田中未春さん（港区社会福祉協議会）による「認知症への理解を深める」ための講演が、「学級活動のあり方（小学校）」分科会では林正夫さん（四天王寺大学准教授）による「コミュニケーションの大切さ」についての講演が、「学級活動のあり方（中学校）」分科会では中村淳子さん（NPO暮らしの寺子屋フイファイエンス主宰）による「愛情の大切さ」についての講演

「コミュニケーションの大切さを学んだ「学級活動（小学校）」分科会④と、愛情の大切さを学んだ「学級活動（中学校）」分科会④



が、それぞれ行なわれました。

参加者からは「携帯電話は便利だけれど、時には被害者にも加害者にもなる可能性があることを、子供たちに教えたいと思いました」（「青少年活動」分科会に参加した女性）などの感想がありました。

忙しい仕事や生活の中で時間を割いて参加し、熱心にメモをとるPTA役員らの姿に、「愛する子供たちたちのため、少しでもよい学校にしよう」そのためにPTA活動の質をもっと向上させよう」との熱意が感じられた催しでした。

あれこれガイド

■石綿 アスベスト 労災パンフ 中皮腫、肺がんなどになり、それが石綿（アスベスト）に触れる仕事をしていたことが原因だと認められ

たら、本人には労災保険給付が、遺族には特別遺族給付金が支給される。このパンフレットは、石綿に触れる仕事をしていた人やその家族のため、①石綿に触れる仕事とはどんなものか②石綿による病気とはどんなものか③それが労災として認定されるにはどんな条件が必要か④などを厚生労働省がまとめたもの。タイトルは「石綿による疾病の労災認定」写真。「メチャ分かりやすい」（区囚五十年代男性）と好評。港区で暮らすか働いている人なら大阪西方労働基準監督署



アスベスト
石綿による疾病の労災認定

労働部 厚生労働省 労働基準監督署

（西区南堀江一・二・三・四、TEL六五三二・〇八〇一、FAX六五三二・〇八〇五）に設置してあるものをもろえる。労災保険相談ダイヤル（〇五七〇・〇〇六〇三二、平日九〜十七時、有料）に電話で質問や相談をすることもできる。

■ムチ打ち（首・腰）無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。五月二十八日（日）十〜十八時に行政書士のむら事務所（築港二・七・一・六〇八）で。

一人約一時間。事前予約制（電話かEメールで。「どついたら正立な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん。Eメール：info@jikkoi10-nomura.com、TEL：六五七六・六〇七八、FAX：六五七六・六〇七九）。

■八幡屋学遊クラブ「宇宙の学習と星を観望する」スライドなどで宇宙の学習をしてから、天体望遠鏡で星雲を観察する。五月十八日（土）十八〜二十時に大阪市中央体育館屋上部（グリーンヒル）で。料金は大人三百円、子供百円。定

員八十名（要事前申込）。問い合わせはNPO法人シニア自然大学校（TEL六九三七・八〇七七、FAX六九三七・八〇七八）まで。

■海の写真コンクール 海への関心を高めるため「海の日」（七月十五日）に向けて毎年実施。海運造船・港湾・湖・川・魚など広く海をテーマにした写真を募集。カラープリント四ツ切（ワイド四ツ切を含む）又はA4サイズ、いずれも平成十四年七月一日以降に撮影した単写真に限る（合成や変形で事実と異なる加工作品は不可）。六月十七日（月）必着。主催者による審査にもとづき、近畿運輸局長賞（賞金三万円＋トロフィー）、大阪府知事賞（賞金二万円＋トロフィー）、大阪市長賞（同）など入選三十点が選ばれる。発表は七月上旬。展示は七月中旬〜八月中旬に海遊館エントランスビルで（上位十点のみ。全入選作品はHPで閲覧可）。応募及び詳細は主催の公益社団法人近畿海事広報協会（TEL552・0021 大阪市港区築港二・七・一五港振興ビル204号室、六八五三・六三八七、HPアドレスはhttp://kinkikikai.jp/sakura.ne.jp/へ）。

障害者ミニ情報

■**手と手とハウス「夏まつきの手作り品」** 藤作とう

品・紙ひも作品(小物入れ)・牛乳ハック椅子など
 〇四百円より▽点字用紙リサイクル品(ティ
 ッシユカバー・靴型小物入れ等)〇二百円より
 ▽アクリルタワシなど小物〇五十円より▽手と
 手とハウスはNPO法人大阪育つ者友の会が
 運営(波除五・四・一八・一階、TEL六五八
 五・三〇三二、FAX六五八五・三〇三五)。

■**NPO法人ナポレオンフィッシュ「下請け作**

業」内職・軽作業〇応相談▽NPO法人ナポ
 レオンフィッシュは就労継続支援B型の指定障
 害福祉サービス事業所(磯路二・一九・四・五
 B、TEL・FAX六五八・九三三四)。

■**港ひかり作業所「手づくり品・レザークラフ**

ト」小銭入れ〇五百〇六〇円▽キーケース〇
 五百〇千円▽カードケース〇四百円▽レザーハ
 ンド〇二百五十円▽ペンケース〇七百円▽キー
 ホルダー〇二百五十円▽めがねケース〇千円▽
 小物入れ〇千〇千三百円▽(従港ひかり作業所
 は池島一・四市富住宅内)TEL六五七四・二二
 四二五、FAX六五七二・二五九〇)。

■**生活介護 あゆみ作業所「手づくり品・トル**

ペイント」ウェルカムプレート・袋物・和柄帽
 子など〇三百円より▽あゆみ作業所は指定障害
 福祉サービス事業所(築港三・一〇・一八、T
 EL・FAX六五七二・〇七二四)。

■**ワークみなと「手づくりお菓子・印刷」**り

んこケーキ・パイナップルケーキ(バザー時の
 み)〇二百円▽くるみゆべし(同)〇二百円▽封筒印
 刷(長3、千枚以上)〇一枚十円(応相談)▽は
 がき(十枚から)〇一枚二十円(応相談)▽名刺
 (ロ〇入れ可)〇百枚一〇五〇円より▽カラー名
 刺(ロ〇入れ可)〇百枚一五七五円より▽ワーク
 みなとは就労継続支援B型の指定障害福祉サ
 ービス事業所(夕凧二・一六・三、TEL六五七二
 ・七五二一、FAX六五五六・九〇一〇)。

■**グリーンズ・グリーンズロ「ベジタブルレス**

トラン・手づくりお菓子・弁当など」ビュッ
 フェスタイルの昼定食〇八百円▽パウンドケー
 キ〇二百円▽豆乳プリン・寒天ゼリー〇二百円
 ▽日替わり弁当(月〇水曜日に港区内配達)〇
 五百円▽オードブル〇応予算▽グリーンズは就
 労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所

(築港三・一〇・七、TEL・FAX六五七四

・二九三〇)▽グリーンズロは就労移行支援の
 指定障害福祉サービス事業所(築港三・一〇・
 一一、TEL・FAX六五七二・八二三八)。

■**マーガレット工房「コンピュータ作業・Tシ**

ヤツ製作・手づくり品」ホームページ作成な
 ど〇応相談▽少量向きプリントTシャツ〇千円
 より▽ビーズ製品〇四百円より▽マーガレット
 工房は地域活動支援センター(田中二・一一・
 一六、TEL・FAX六五七六・二二八四)。

■**ふらっと「手づくりお菓子」**クッキー〇二百円

より▽雑巾〇二枚百五十円▽ふらっとは地域活
 動支援センター(夕凧二・一一・一八、TEL・
 FAX六五七五・二二五五)。

■**ゆづり美波途「手づくり品・レザークラフ**

ト」マグネット(花型・帽子型)〇二百円▽ア
 クリルタワシ〇三百円▽お手玉〇二百円▽ブック
 カバー(レザークラフト)〇千円より▽革製品
 色々〇三百円より▽ゆづり美波途は生活介護
 就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業
 所(三先二・二二五、TEL六五七二・一一一
 九、FAX六五七二・一一四二)。

立ち直りの歓び共有

家族と一緒に「港断酒会」が花見



→仲間と励まし合って酒を断ち、新しい自分を

作れた」と立ち直りの歓びに溢れた「港断酒

会」の花見風景＝4月14日、八幡原公園で

「酒を断って新しい自分を作っている」。

アルコール依存症者とその家族の集まりである

「大阪市港断酒会」が四月十四日（日）、八幡

原公園で花見会を催しました。桜の下に約二十

人が集い、持ち寄った弁当やお菓子やお茶を囲

んで和やかなひとときを過ごしました。

◆体験語り、励まし合い

同会は昭和五十四（一九七九）年、「公益社団法人全日本断酒連盟」（昭和三十八年設立。会員約八五〇〇人の下部組織として発足。「医者にアルコール依存症と診断されて入院した患者らの自助組織」ということですが、「酒をやめたい」人なら誰でも入会できます。

現在、会員約二十名が「酒を断って新しい自分を作っている」「迷惑をかけた人たちに償いをしていく」「多くの仲間が立ち直っているのに私が立ち直れないはずはない」などを言葉に、毎週金曜日の夜十九～二十一時、市岡元町老人憩いの家（市岡元町一ノ二二）で「断酒例会」を開催。励まし合いながら活動が続けています。

①自主的な互助グループであること
②先生やリーダーといった指導者のないな

いこと③例会では互いに姓名を名乗って体験談に終始すること④家族間の交流が重視されていることなどが特徴です。

◆幸福は足元に、感謝で一杯

花見会に参加したある男性会員は、かつて官公庁に勤め、生活保護ケースワーカーなどをしていましたが、仕事のストレスなどから自身がアルコール依存症になったそうです。が、同会に所属し、同じ過去を持つ人たちと体験を交流し合い、励まし合う中で立ち直ることができ、今では「断酒幸福は足元にある」と裏書きした名刺を手に、積極的な活動が続けています。

また、ある会員の妻は「主人は依存症によってそれまで築いてきた信頼も誇りも全て失ってしまいました。今は地域での奉仕活動にも進んで参加しています。私自身も家族会に参加して皆さんが共通の苦しみ、悲しみ、悔しさを味われたと知り、心の安らぎを感じることができました。感謝で一杯です」と語っています。

なお、アルコール問題での相談や断酒会についての問い合わせは社団法人大阪府断酒会（☎〇七二・九四九・二二二九）まで。

筆記具に「ありがとう」

天満宮で筆供養祭など厳肅に温かく



→ 使い古した筆記具に感謝し供養を行なった

「筆供養祭」4月7日午後、三先の天満宮で

(写真提供 神前「玉串を捧げる村岡高司」)

使い古した筆記具に感謝し、供養する「筆供養祭」などの伝統的な諸行事が四月七日午後、三先二丁目の天満宮で催され、数十人が参加しました。

◆使い古しの筆記具を供養

この日行われたのは「筆供養祭」「献茶祭」「お茶席」。このうち「筆供養祭」では、地元の人たちが持参した筆や鉛筆など使い古しの筆記具の供養が行われ、書道・文字・学業・習い事などの上達が祈願されました。

同宮では毎年、祭神である菅原道真公の神徳に当って年初に「書き初め」(本紙一月「既報」)を催しており、その際に用いる筆の供養を主な目的に供養祭を続けてきましたが、近年は筆だけでなく鉛筆や万年筆、ボールペン、シャープペンシルなども受け入れ、供養しているということでした。

◆献茶祭やお茶席も

また「書道と同じく日本の伝統文化である茶道も身近に感じてもらおう」と同時開催された「献茶祭」では、神前に供えた薄茶を点てたのと同じ釜からお茶を点て、参加者がお菓子と共に

← 供養のために持ち込まれた筆記具の一部が、同時開催された「お茶席」の様相



に味わいました。また「お茶席」では約二十人が境内の桜を觀賞しながらお菓子とお茶を楽しみました。

◆奉仕者に神の加護を

村岡康生高司は、「二回目の今回は筆を事前にお持ち頂いた方も目立ち、少しずつ理解と周知を得てきたのではないかと感じました。次年度はもっと多くの方にお参り頂けるよう、一年をかけて地域の方々と模索していきたいと思っています。この祭典や催しの趣旨にご賛同を賜り、「奉仕頂いた方々には深く感謝申し上げますと共に、大神様の御加護があることを心より願っております」と話していました。

礼節健在、清々しく

第50回 港区民剣道大会に2百人



→ 礼儀正しく清々しい雰囲気印象的だった

「港区民剣道大会」(写真)は冒頭に行なわれた模範演武。4月28日、港入ホーッセンター

「心身ともに健やかな青少年の育成を」と毎年開かれていた「港区民剣道大会」(区長杯)が今年も四月二十八日、港入ホーッセンターで開催され、参加十六団体の選手や関係者、合わせて約二百人で賑わいました。五十回目。港剣友会が主催、港区体育厚生協会と港区役所が後援。

◆ 緊迫の模範演武

開会式では、淡路谷松之助・港剣友会会長の開会宣言に続いて、萩野久美子・港区体育厚生協会会長、田端尚伸・港区長、西徳人・市会議員が選手たちを激励。淡路谷佳幸五段(港剣友会)が凛とした声と姿勢で選手宣誓を行いました。

競技冒頭は模範演武。井上晃一七段(港剣友会)立ち会いのもと、安岡隆憲八段(港剣友会)ら五選手が、山本重樹七段(大阪府剣道連盟南地区委員長)ら上級者五人に挑む形で緊迫感溢れる攻防が展開され、大きな拍手が起りました。このあと夕方まで次々と競技が進行。閉会式では成績発表や表彰が行なわれました。

◆ 山本重樹選手(井上剣)など優勝

熱戦を制した優勝団体・選手は次の通り(敬称略)。交流試合個人戦小学生(三十四人) 山

本重真(井上剣友会少年剣道部)▽交流試合個人戦中学生(四十三人) 出口飛向(中泉尾少年剣道クラブ)▽交流試合個人戦女子(十人)

笹森佳菜子(日本・パナユーズ)▽交流試合個人戦四十五歳以上(十七人) 鷗下知也(市岡高校OB会)▽区長杯団体戦一部(十二チーム) 市岡高校OB会B▽区長杯団体戦一部(五チーム) 朝潮剣翔会Cチーム▽交流試合団体戦國長杯(八チーム) 港剣友会B

◆ 壮年剣士の声

出場剣士たちの声を訊きました。

区長杯団体戦一部への出場を控えた西崎泰清選手(二先剣友会、六十四歳)は「剣道との関わりは高校一年で入った剣道同好会。クラブではないので気楽に楽しめ、卒業までに初段、大学では三段まで上がりました。仕事の関係で三十歳から中断し、四十七歳の時に脳梗塞で左半身不随になり、医者から『運動は絶対あかん』と言われましたが奇跡的に回復しました。五十四歳で再び剣道を始めたのですが、これが体に良くて、健康がさらに増進され、倒れた時の体重八十四キが今では七十一キ。去年は四段から

五段に昇進し、来年は六段に挑戦しようと思っています。剣道は私にとって青春であると同時に「命の恩人」。体に良いだけでなく精神面でもプラスになっています。心の落着きを得られる一方、誰にも頼れない厳しさがあり、それがまた魅力です。これからも心身の健康のため目標を持ちながら続けていきたいと思っています。今日はチームの初戦突破に貢献したいです」。

◆青年剣士の声

区長杯団体戦一部と団体戦國長杯への出場を控えた大住元克徳選手（井天剣友会、三十八歳）は「小学四年生の時に始め、十五年ほどのブランクの後、十年前から再開しました。途切れながらも続けてきたことで心身の鍛錬になり、人間形成にもプラスになったと感じています。剣道は一对二で真剣に向き合う厳しさが魅力です。また思い切り体を動かし、大声を出し合うことで、日頃の生活や仕事のストレス発散にもなります。特に得意技はありませんが、基本に忠実な剣道を心がけています。四年前に四段になりましたが、これからも昇段などの目標を持ちながら続けていきたいと思っています。今日はチ

↑開会式で力強く選手宣誓する淡路谷佳幸五段
④、小学生の部の試合風景④



ームの初戦突破に貢献したいです」。

◆中学生剣士の声

交流試合個人戦中学生の部への出場を控えた淡路谷七枝選手（田中剣友会、市岡中三年）は「父やおじさんや従兄弟が剣道をやっている関係で、中学一年の十一月に始めました。ずっと動いていなければいけないことや、『手首をひねって』『腰から動いて』などと指導されたことを幾つも同時にやらなければいけないこと、顔がかゆくても（お面があるので）かけないことなど、辛いことは一杯ありますが、お互いが遠慮なく攻め合えるところが気持ちいいです。また大人の迫力ある試合を観ると『私もあんな風に』

と憧れます。けつこつ筋肉がつくなど心身の健康にプラスになっているので、これからも今のペースで続けていきたいと思っています」。

◆小学生剣士の声

交流試合個人戦小学生の部に出場した鈴木諒成選手（田中少年剣道部、田中小五年）は「二年生の時に始めました。剣道をしている隣のおじさんを『カッ！ええなあ』と思っていたのと、稽古を見て『ギリッとしているなあ』と感じたからです。打ちこみ稽古で息切れしづくなるなどいい面もありますが、大人の人に挑戦できるのは楽しく、試合に勝った時は最高です。ドゥとメンが好きですが、これからも練習して技を身につけ、心身共に強い剣士になり、できれば剣道を生かして警察官になれたらと思っています」と話していました。

◆爽やかな雰囲気

会場への出入りでは一礼する、試合後は勝つても負けても互いの健闘を称え合うなど、一つの大会で選手たちが見せた一挙一動の凛々しさは、礼節を尊ぶ日本民族の品格がなお健在なことを示し、清々しい気分にならせてくれました。

築港クラブが逆転サヨナラV

ふれあいソフト お別れ大会



→最終大会となった「地域ふれあいソフトボール大会」（4月28日）。港区のソフトボール愛好者の交流イベントとして15年続いた

「地域ふれあいソフトボール大会」が四月二十八日、八幡屋公園多目的広場で開催され、爽やかな春空の下、朝から夕方まで十チームが熱戦を繰り広げました。同大会は港区のソフトボール愛好者の交流を目的にほぼ毎春秋に開かれ、三十回を迎えましたが、今回が最終大会となりました。

試合は四ブロック（各三チーム）に分かれて予選リーグ（各チーム二試合）が行なわれ、各ブロック首位四チームのトーナメント戦へと進みました。準決勝ではエンゼルスが三先クラブを十二対一、築港クラブがイチョークラブを二対〇でそれぞれ降し、決勝へ駒を進めました。

●緊迫の決勝戦

決勝は緊迫の投手戦となりましたが、先手を取ったのはエンゼルス。三回表に適時打で一点を奪い、安定した投手力と守備力で逃げ切りを図りました。が、土壇場の最終回（五回）裏、築港クラブは四球と安打による一死満塁から三番・山川翔大選手がセンター前へ適時打。一者が還って劇的な逆転サヨナラ勝ちを収めました。エンゼルスは強力打線を三安打一点に抑えた

かみや
神谷投手の粘投が最後に実を結びました。

築港クラブは七年ぶり八度目の優勝。エンゼルスは八度目の準優勝。最終大会のクライマックスにふさわしい好ゲームでした。

●エース中心に総合力でV

優勝の築港クラブ（得本武監督、藤本治主将）は築港地区をエリアに結成十六年。メンバー揃っての練習がほとんどできないハンディを、質の高い自主トレや緻密なサインプレーで補い、高度な職人軍団を作り上げてきました。

今大会では、よく制御された速球を主体に、浮き上がるボールや落ちるボールを織り交ぜ、三試合を一失点と大車輪の活躍を見せたエース神谷投手、予選二試合を完封勝利で飾って優勝への弾みをつけた佐藤投手、好リードで投手を支え、強肩で対戦チームの盗塁を完璧に封じた金田捕手、四番・佐藤選手を軸に、全得点の半分近い打点を挙げた三番・山川選手や、準決勝での決勝点を犠牲でもたらした三好選手らムラのない打線、全試合を通じて無失策だった鉄壁の守備陣、さらには要所でバントやヒット・エンド・ランやスクイズを駆使して揺さぶりをか

けた監督の采配さいはい。こつした要素が噛み合つての総合力の高さが栄冠を引き寄せました。

得本監督は「最後の大会ということで、みな心に燃えるものがありました。それが最高の形で表われました。長年親しんだ大会がなくなるのは寂しいですが、好チームがひしめく中で、四連覇を含めて八回も優勝できたのは、とてもよい思い出です」と話していました。

●パワーと緻密さで準V

一方、準優勝のエンゼルスは市岡東中PTAのOBを母体に結成十数年。大林義夫監督よしおのもと、南市岡小で毎月一回、各五時間の練習を重ねてきました。投手力を中心に、守りからリズムをつくり、鋭く振り抜く打撃に足を絡めた攻撃へとつなげる流れは芸術的。指示に忠実で、ミスしても互いに声をかけ合つ爽やかなチームカラーは、礼儀などソフトボール以前のところでも適切な指導が貴かれていることを伺わせま

す。この大会では過去に優勝一回、準優勝七回と屈指の安定感を誇りました。

今大会では、穴のない伝統の守備力に加え、四試合で三十八点を奪った攻撃力は出場チーム

←質の高い攻守で8度目の優勝を飾った築港クラブ⑤と、準優勝にも爽やかなエンゼルス⑥



中随一。決勝こそ築港の粘りに屈しましたが、そのパワーと緻密さを兼ね備えたプレーは、最後の大会を大いに盛り上げました。

●他チームも最後のプレー楽しむ

出場した他のチームの予選成績は、波除クラブ二敗、市岡中一勝二敗、スマイルズ二敗、三先クラブ二勝、弁大小一勝一敗、イチヨークラブ二勝、八幡屋クラブ二勝二敗、田中OB二敗、港南クラブ一勝一敗、南市岡OB二敗。各チームとも日頃の練習の成果を発揮し、大会打ち切りを惜しみつつ最後のプレーを楽しみました。

閉会式では成績発表と表彰が行なわれ、ホストチームであるスマイルズ（田中地区の壮年による王蒙チーム）の幹部が、この大会で最後となることを報告して理解を求めると共に、参加チームのこれまでの協力に感謝を述べました。

●発展的解消、今後は構想中

この「地域ふれあいソフトボール大会」は一九九七年十一月に第一回を開催。秋田隆敏たかみ本部長、寺尾正明しげあき審判委員長らスマイルズメンバーを中心に、出場チームも審判や記録、グラウンド整備に協力する形で回を重ねました。この中で多くの名勝負が繰り広げられ、優勝回数最多はイチヨークラブ（八幡屋のいちよつ団地住民を主体とするチーム）の十一回。今回優勝の築港クラブの八回がそれに続いています。

今後について寺尾審判委員長は「ふれあいの場として続けてきた十五年の歴史を土台に、今後は、その目的をさらにしつかり実現できる形のイベントを構想中です。その時はまたよろしくお願いします」と語り、大会終了があくまで「発展的解消」であることを強調しています。

音楽の香り高い街に

関西フィルとともに歩む会 総会&演奏会



→好評だった「関西フィルとともに歩む会」の総会&演奏会Ⅱ4月7日（写真はヴァイオリン演奏に合わせて体を動かすワークショップ）

「音楽の香り高い街を皆でつくる」。港

区に拠点を置く関西フィルハーモニー管弦楽団を応援する「関西フィルとともに歩む会」が十五周年を迎え、これを記念して四月七日、弁天町オーケホールで総会と演奏会が開かれました。

総会では足立敏博代表世話人が挨拶に立ち、「ともに」に拘りながら、「音楽の香り高い街」をめざして演奏家と聴く側が同じ目線で取り組んできた会の歩みなどを報告。「文化予算削減の中、安定して演奏活動が続けられるよう、公的助成の拡充を求めています」と呼びかけました。

♪会場全体で音楽をつく

コンサートの第一部は「ワークショップ」。参加者は関西フィルワークショップ委員会の工夫を凝らした進行で、ヴァイオリン演奏に合わせて自由に体を動かしたり、手拍子や言葉でリズムを打ったりしながら、会場全体での音楽づくりを体験。「コンサートは聴くものとはかり思っていたので戸惑いましたが、知らない者でいいです。すぐに打ち解け、楽しい時間を共有できました」（参加者）と好評でした。

第一部は「弦楽四重奏＋ファゴットによる」

「コンサート」と題し、同楽団メンバーが「さくら」「荒城の月」など日本の名曲やパッフェルベルドゥヴィエソヌ、ハイドンなどを演奏。参加者からは「気持ち軽やかになり、楽団員との交流も持て、心が前向きになりました」「間近で聴く弦楽四重奏と木管楽器の美しい音色にびっくりしました」などの感想が聞かれました。

全体として、団員のサービスマン精神と市民のサポート熱が溶け合い、クラシック演奏会にありがちな堅苦しさを感ぜさせない、家族的な雰囲気印象的でした。

♪求められる助成と支援

同楽団は一九七〇年創立。九三年から弁天町オーケに練習場と事務所を置き、〇三年にはNPO法人として再出発。幅広いレパートリーと質の高い演奏で、関西を代表する楽団に成長。子どもたちに音楽の楽しみを広げるワークショップ開催や平和コンサートへの協力も。文化予算の削減が続く中、公的助成の充実と草の根の支援が求められています。

☎六五七四・七七五八 足立代表世話人。

地域の催し

地域パワーが全開！

弁天まつり 名物カラオケ大混戦



→地域のパワーが溢れた「弁天まつり」(写真は大混戦だったカラオケ大会の講師を述べる港区弁天連合振興町会・上田哲夫会長)

住民参加型の地域イベント「弁天まつり」が

四月二十九日午後、オーク広場(弁天一丁目)で開催され、多くの区民で賑わいました。港区弁天連合振興町会(上田哲夫会長)とオーク200が毎年この時期に共催し、二十回目。

♪「コーラスやダンスも

舞台では正午から地域住民による「コーラスや歌や踊りが次々と登場。毎年人気のメインイベント「カラオケ大会」では各町会から推薦された十人が次々とマイクを握りました。

この中で、伊藤武司^{たけし}さん(四丁目西町会)は『くんちのぼせ』(池田輝^{しやうじ}郎)を披露。張りのある声で明るく元気に、また東海林^{しやうじ}太郎^{りん}はりの凛とした姿勢で歌い上げました。

楠本^{くすもと}心^{こころ}で^{こころ}さん(一丁目東町会)は『愛のふ



→『くんちのぼせ』を歌う伊藤武司^{たけし}さんと『愛

のふれあい』を歌う楠本^{くすもと}心^{こころ}で^{こころ}さん

←『輪草』を歌う物部千賀子^{ちかこ}さんと『津軽慕情』を歌う森本^{しんぽん}静^{しずか}さん



れあい』(沢ひろしとTOKYO09)。豊かな声量、柔らかで艶^{つや}のある声で、男にすぎる女の切ない感情をしつとりと歌い込みました。

物部千賀子^{ちかこ}さん(五丁目東町会)は『輪草』(川中美幸)。夫婦の幸せをかみしめる女の喜びを手ぶりも愛らしく、潑^{はげ}刺^しと歌い上げました。

森本^{しんぽん}静^{しずか}さん(四丁目南町会)は『津軽慕情』(山本謙司)。よく通る骨のある声で、津軽への望郷の想いをじつりと温かく歌い込みました。

石井京子^{きょうこ}さん(四丁目南町会)は『白^{しろ}い海峡』(大目みやこ)。和服姿もいついそ、愛する男を想う女性の四面の熱さ、深さを、きめ細かな歌唱でドラマチックに表現しました。

敷井^{しきい}清澄^{しやうさや}さん(四丁目北町会)は『なやみ』(杉良太郎)。生活力がないため女の幸せを叶^{かな}

←『白い海峡』を歌う石井京子さん④と『なやみ』を歌う藤井清澄さん④



えてやれない男の不安とやるせなさを、豊かな声量と情感の籠った歌唱で表現しました。

吉田香子さん（丁目西町会）は『千恵つこよさわ』（岸田文子）。圧倒的な声量、張り切りのある発声、メリハリをきかせたプロ級の表現力で歌い上げ、会場のどよめきを誘いました。

杉本量一さん（五十目町会）は『くれなゐの雨』（三門忠司）。ソフトな声質を生かした穏



→『千恵つこよさわ』を歌う吉田香子さん④と

『くれなゐの雨』を歌う杉本量一さん④

←『立待月』を歌う鴻野恭江さん④と『酒のやど』を歌う宮本忠良さん④



やかな歌唱で、女の幸せを願う男の気持ちをしっかりと歌い込みました。

鴻野恭江さん（四十目北町会）は『立待月』（北野まち子）。男の移り気にも熱い想いを持ち続ける切ない女心を、情感籠る田熟の歌唱で表現しました。

宮本忠良さん（五十目東町会）は『酒の宿』（香西かおり）。さすらいの宿でのひとときの触れ合いの温かさを、マイペースの歌唱で、丁寧

にしっかりと歌い切りました。

山地巖さん（四十目東町会）は『風説御陣乗太鼓』（木原たけし）。奥能登の風物に託した望郷の想いを、張りのある声で、爽やかに力強く歌い上げました。

宇山重美さん（五十目東町会）は『君こそ我が

←『風説御陣乗太鼓』を歌う山地巖さん④と『君こそ我が命』を歌う宇山重美さん④



命（水原弘）。愛する女性へのまっすぐな想いを男らしく堂々とした歌唱で歌い上げました。

中野勝子さん（丁目西町会）は『愛と死を見つめて』（青山和子）。男性への純粋な愛と、残り少ない自らの命への哀しみを、透き通った美しい歌声で表現しました。

岡島恵美子さん（丁目西町会）は『桂浜情歌』（浜桂子）。桂浜の波に託した恋情を、熱



→『愛と死を見つめて』を歌う中野勝子さん④と『桂浜情歌』を歌う岡島恵美子さん④

←『ジューピター』を歌った辻博美さん④と『長良川艶歌』を歌った渡部武志さん④



くも丁寧な歌唱で表現しました。

辻博美さん（フロスタワー町会）は『ジューピター』（平原綾香）。豊かな声量、伸びと張り、透明感のある歌声、超高音をも我が物にした広い音域、繊細・正確な音感、メリハリとリズムに溢れた躍動的な発声、観る者を歌の世界へ引き込む華麗なパフォーマンス等々、全てがプロ級の歌唱で、高らかに愛を歌い上げました。

渡部武志さん（二丁目東町会）は『長良川艶歌』（五木ひろし）。長良川の風物に託した男女の深い情愛を、艶のある声、ピアノをきかせた独特の歌唱でじっくりと歌い込みました。

外園雄三郎さん（三丁目北町会）は『浪曲子守唄』（二節太郎）。子や孫の声援を受けながら、男の色気を感じさせる、絞り出すような渋い発

声で、気持ちの入った台詞、切れのあるまじりもまじえ、不憚な我が子への愛情を、熱く、骨太に歌い上げました。

鴻野正伍さん（四丁目北町会）は『大器堂々』（北島三郎）。豊かな声量、張りのある力強い発声、堂々とした歌唱で、男の進むべきまっすぐな道への讃歌を高らかに歌い上げました。

「弁天一なら港区二」の声もあるハイレベルの大会とあって、いずれ劣らぬ歌唱の連続に、会場から拍手喝采が絶えませんでした。

♪辻博美さんが優勝

予想通りの大混戦となりましたが、上田会長ら五人による厳正な審査の結果、次の各賞が決まりました（敬称略）。

優勝＝辻博美▽準優勝＝吉田香子▽連合会長



→『浪曲子守唄』を歌った外園雄三郎さん④と『大器堂々』を歌った鴻野正伍さん④

賞＝渡部武志▽女性部長賞＝山地蔵▽店舗会賞
＝鴻野正伍▽オーク200賞＝森本静▽松浦のみ賞＝岡島恵美子

カラオケ大会の後には磯路在住の歌手・松浦ゆみさんのミニライブがあり、『涙のラブ・バラード』『みなと歌』などの持ち歌から『川の流れのように』『柔』『お祭りマンボ』などのひばり物まで、プロならではのパワフルな歌唱でステージを華やかに飾りました。

全体を通じて口頃の弁天住民のパワーが一気に花開いたような溢れる活気が印象的でした。

♪愛のメッセージを込めて

カラオケ大会で優勝した辻博美さん（一九）は『愛を歌ったメッセージ』性の強い歌ということで『ジューピター』を選びました。ステージでは『聴いている人たちに感動してもらえように！』と心を込めて歌いました。シンガーソングライターとして活動していますが、この賞を励みに、芸能界で活躍できるように目指して一層レッスンを打ち込みたいと思っています」と喜びを語っていました。

港区のマドンナ全開

青木美香子さんがコンサート



「港区のマドンナ」の愛称で親しまれている八幡屋生まれ・井太在住の歌手・青木美香子さんが四月二十八日、大阪大丸心斎橋劇場でコンサート「青木美香子・大丸心斎橋劇場」を開催。多くの来場者で賑わいました。三月に新曲『優しい風』『KIRARIN』をリリースしたのを記念しての企画。

♪ 透き通った声と豊かな表現力

青木さんはバンドの生演奏をバックに、ある時は華やかなドレスで、ある時は可愛いミニスカート姿で、ダンスグループとの共演やゲストとのデュエットも交えながら、新曲二曲をはじめ、『ほれたんやから』『スロウダンス』『歌は人生』など過去のリリース曲、『木綿のハンカチーフ』など日本の懐かしい歌、さらには『メネシールワルツ』などの洋楽を次々と披露。爽やかで透き通った声質、超高音もカバーする広い音域、演歌からポップス、ミュージカル、クラシック、アニメソングに至る幅広いレパートリー、曲想に応じた豊かな表現力等々、彼女の持ち味が遺憾なく発揮され、実力派マドンナとしての魅力全開のステージとなりました。

←『優しい風』などを熱唱する青木美香子さん



会場には揃いの黄色いTシャツを着たファンも多く見受けられ、青木さんの熱唱を盛んに応援。「港区から全国へ」の熱気が溢れていました。来場者の女性は「演歌からジャズ、ポップス、クラシックと何でも歌いこなされてびっくり。幅広いレパートリーと歌唱力に感心しました」と話していました。

♪ 新曲は自作詞

新曲『優しい風』は、深刻な世相の中、「心配しないで、大丈夫」という気持ちを込めて自作詞（ペンネーム・夕風みか）。これに秋元順子らの曲を手がける小田淳平氏が曲を提供。『KIRARIN』も自らの詩にギタリストの鈴木勇造氏が曲を付け、バラード風に仕上げました。

オフィスM^ミK^{カリ}ARIN 06五七六・六六

五三、090・五三六七・二二六三。

→ 盛況だったコンサート 4月28日、中央区

港町ムードたじぷら

名物ライブ「あわや夜合酒場」復活



「生演奏の魅力を満喫できた」とこのミュージシャンも个性的ですばりかった」。港区の名物ライブが三年ぶりに復活し、好評を博しました。四月二十六日夜、築港 丁目の大衆食堂「あわや食堂」で開かれた「あわや夜合酒場」には区内外から音楽ファンが訪れ、港町ならではの温かでさつぷらんな雰囲気の中、五組のミュージシャンの个性的な演奏を楽しみました。

♪母親の介護がきっかけ

このライブは五年前の二〇〇八年八月にスタート。きっかけは店の主人・西浦雅之（まゆじ）さんの母親の介護でした。音楽好きだった、今は亡きミサエさんの「音楽を聴きたい」との願いを叶えようとしても重度のリウマチで外出が困難だったため、「それならいっそここで楽しもう」と始めたのです。以来、ミュージシャンどうしのつながりがつながりと呼んで、出演者の輪が広がり、多彩な顔ぶれが店内を賑わしました。毎月第三金曜日に「投げ銭」レギュリエスタイルなど様々な形で二年ほど続いた後、事情で一時中断。この日が復活第二回となったものです。

♪フォーワのPUU-Fやと

ライブではまず、築港三丁目の日本パナールズ（株）に勤め、「五十代になってから音楽を始めた」といつフォーク歌手「PUU-F」（本名：藤田勝己（かつみ））さんが、張りのある声と巧みなギター伴奏で、ボブ・ディランの「アイ・シャル・ビリーヴ・イン・ユー」、港町のムードをけだるく歌った『ホンキー・トーンク・トレイン・ブルース』『愛する者への温もりを忘れるな』の詩が印象的な『オールド・ルーキー』などを披露しました。

♪沖縄民謡のほしほしと

次に、住友江区咲洲（さいしゅう）で働き、四年前から沖縄民謡などを歌っているという「ほしほし」さんが三線の伴奏で加わり、PUU-Fさんのギター伴奏との「ミラボで『竹富島で会いましょう』を演奏。三線の響きが店内を一気に明るくしました。次いで、ほしほさんが静かな沖縄古典民謡をソロでじっくりと聴かせました。

♪パーカッションのパー・Kやと

このあと築港 丁目で働くパーカッション「トビラー・K」さんのカホン伴奏が加わり、PUU-Fさんはワウフレに転換。この二者共

→港町ならではの温かなムードが印象的だった
「あわや夜合酒場」＝4月26日 築港の「あわや食堂」で（写真左）浪花町のあやのこの歌謡

演に会場の指揮や手拍子も加わって、ビギンの乾杯ソング『おじい自慢のオリオンビール』『おばあ自慢の爆弾鍋』、さらには美しい旋律で沖縄の心を歌った『島んぬ玉』『かりゆしの夜』も演奏され、祝杯ムードはピークに達しました。

♪浪花町の京子さんは本格ジャズ

「ここ、五年前から南森町の路上でライブを続け、「みなと秋まつり」(現在の「天保山まつり」の前身)でも歌ったことがあるという、北区天満在住のジャズシンガー「浪花町の京子」さんが登場。再びギターに切り替えたJPU・Fさんら三人の伴奏をバックに、フランク・シナトラの『オール・オブ・ミー』、松田優作の『横浜ホンキー・トーンク・ブルース』、ブルースのスタンダードナンバー『サマー・タイム』などを連続熱唱。本場の黒人歌手並みの圧倒的な音量が会場を圧しました。

ついに、京子さんのリードで参加者も声を揃え、優しい詩と美しい旋律が光る『童神』、泣き笑いなどの自然な気持ちを大切にしようと呼びかける童謡『花』など、和やかに合唱。最後に再び京子さんがジャズのスタンダードナ

←息の合った歌唱と明るいトークで盛り上げた花☆キャラと、見事な「リボ」を演じたJPU・Fさんのギター、ほげぼげさんの三線、ビリー・Kさんのパーカッション(左から)④



ンバー『我が心のジョージア』を圧倒的なソロ歌唱で歌い上げました。

♪歳の差ユニット「花☆キャラ」も

このあと登場したのは、大正区での会社勤務(設計と経理)を終えて駆け付けたという市岡元町在住の二十三歳差の夫婦ユニット「花☆キャラ」。夫ニッシーさんの爽やかな男声と巧みなギターとユーモア溢れる口上、妻力オリンさんの愛らしい女声と伸びやかな歌唱で、『愛はダーン』『ぶぐろいの恋』『砂の貝殻』『ラブ・ソング』などを披露。虐げられてきた沖縄への

想いや、「生きているだけで素晴らしい」「夢を諦めないで」などの前向きメッセージが会場の共感を呼びました。

♪壮大な「リボ」で幕

再びJPU・Fさんがギターで登場。♪大阪みなとの玄関口は大観覧車が聳え立つ天保山夕日輝く海岸線 海遊館に赤煉瓦 おっちゃんおばちゃん 家族連れまで気楽に過す」と地元港区を愛情たつぷりに描写した『天保山』(木村充揮『天王寺』の替え歌)や、『環状線』『新喜劇』などの大阪風物をテンポ良くちりばめた『大阪ソング』を軽快に歌い上げました。

このあと花☆キャラやほげぼげさんも加わって『涙そうそう』を情感たつぷりに重唱。ほげぼげさんは格調高い沖縄民謡『芭蕉布』とビギンの『三線の花』をソロで熱唱。最後はJPU・Fさんのギターとボーカル、ほげぼげさんの三線、ニッシーさんの踊り、それに会場の手拍子が壮大に「リボ」して、ザビエル大村の「当地ソング『天保山くせやから大阪』『大阪やっちゃんねん』を快テンポで大合唱。浪花情緒と港町ムードが溢れ返る中、三時間に亘ったライブの

幕が閉じられました。

ライブ全体を通じて、演奏中にも料理の注文やお喋りが飛び交うような雰囲気、印象的でした。

♪ほんわかムードよかった

ほどほどに誘われて参加したという二十代夫婦（築港在住）は「音楽はジャンルを越えて好きです。このライブは初めてでしたが、ほんわかしたムードが気に入りました。京子さんの迫力には驚きましたね」。

港区の名物イベント「大保山まつり」に「キャンドルナイト」などを通じて店主の西浦さんと親交があるという重山英樹さん（築港でカフェレストラン経営）と中村欣嗣さん（築港で整骨院経営）は「もともとフォークソングやニューミュージックが好きで、このライブには毎回参加していましたが、復活すると聞いて、やって来ました。今日はいいミュージシャンも个性的ですばりかったですね」。

中村さんと築港中学で同クラスだったという四十代女性は「中村さんに誘われて参加しました。昔、フォークバンドを組んで演奏していた

こともあり、生演奏のすばらしさを改めて実感しました」。その女性の夫は「みな良かったですが、特に三線の響きがたまらなかったですね」と満足そうでした。

♪「糧」にもなる「ライブめぐり」

復活ライブを終えた西浦さんは「久しぶりの開催にもかかわらず、大勢の方に来場して頂き、本当にありがたかったです。今回中心になって下さったJ.P.U.F.さんをはじめ、仕事を終えて駆け付け、熱演されたミュージシャンの姿には、音楽や技術を越えて『この人ら、ほんまカッコええわ！』と熱いものを感じました。地域に住む人、働く人、訪れた人たちの交流の場になれば、この思いから『夜台酒場』と名付け、始めたライブですが、これからは『楽しい』だけでなく、食物アレルギーや社会問題を考えるなど『糧』になることもめざして続けていければと思います」と話していました。

あわや食堂 築港一・ハートで二代つづ

大衆食堂。月々土曜の十一〜十四時にランチ営業（日替わり弁当が中心）、金曜のみ十七時半〜二十一時に居酒屋営業。☎六五七二ー一〇二二。

ひとくちPR

（1行＝税込1000円）

●何でも書きます、まごめします 手紙・案内・報告・宣伝・司会等の文案。自分史・社史・団体史等の聞き書き。新聞・広報・書籍・会報等の取材・編集。☎6571・4636港新聞・飯田編集事務所。

●アルバイト急募 週一回の新聞配達と月一回の集金を都台のいい時間に。港民主商工会（分）☎一〇・一六、☎六五七二ー七八六七。

●放課後・春夏夏休みは学童保育へ 入所見募集。見学無料・体験OK。家族的雰囲気。区内に二カ所。☎6575・0335あらんじ。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて20日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館（三三文化案内） 招待券をペア2組に。

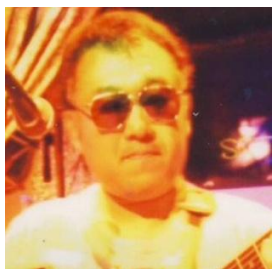
●関西フィル「第248回定期演奏会」（三三文化案内）招待券をペア1組に。

●あながいおまる一座『舞台女優』（演劇ガイド） 招待券をペア2組に。

ライブ情報

●八幡屋出身ロックドラマー 桐田勝治さん きりたかつじ 日

本のビジュアル系ハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。「周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに」と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガーゴイル」の十五枚目のニューアルバム『奇獣』好評(愚鈍)「命の傷」「夢果実」など十一曲)▽六月二十五日(火)十九時からならば Hatch で所属バンド「ザ・クロマヨンス」のツアーライブ「ファイティ対ワロマンション」に出演予定(八六三三七・四四〇〇サウンドクリエーター)▽七月二十日(土)十八時から江坂ミューズ(八六三三七・〇二〇三三)で「ガーゴイル」二十六周年記念ライブに出演予定。



↑桐田勝治さん(左)とハチロウさん(右)

●三先のフォーク歌手、ペドロさん 切断フラザ

ーズ(親指切断の共通体験を持つ三人で〇六年結成)のリーダーやソロで温かな雰囲気のアリジナルフォークソング▽毎月第一・三木曜各二十時ザ・セラー(中央区西心斎橋、八六二二・六四三七)▽毎月第二火曜二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町、八〇九〇・五八八二・七〇一五)▽毎月第一火曜二十時半ロージー(中央区西心斎橋、八六二二三・三九九九)。

●市岡元町在住の音楽ユニット「花☆キャー」

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルグリータとトマトパスタ』『あなたらしくあたらしく』好評▽http://www.occ.ne.jp/~hanna200803



演劇ガイド

●あながいおまる一座『舞台女優』 波除の自由 フリースペース

空間「石炭倉庫」を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを含めた芝居を演じ続ける同一座による、座付き作家・故綾羽一紀(き)二回忌追悼スタジオ公演。一逞かな逞かな遠い国へ旅する時は船の旅がいい。舞台女優八十周年記念公演の夜、ホテルの一室にあった古い手紙。

まるで夢のような過去が甦り、女優・村松秋子(あき)はしだいに若くなる。原作・脚本・綾羽一紀

(JDOC出版『ガラスの摩天楼』に原作収録、主演:辻美知子、演奏:大川真一郎(クラリネット)・吉田雅代(ピアノ)、演出:あながいおまる。五月十八日(日)十一時半、十四時、十六時半の三回。料金は前売三千円、当日三千三百円。

問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、JR井田駅から国道四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。八六五八・〇六六四、FAX六五八・一六七〇。チケット専用フリーダイヤル〇二〇・二三四・一・三三九。Eメール:theater@sekitansouko.co.jp)へ。

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一がつづる当地ドラマ。区内の地名や人名が登場しますが、総じてフィクションです。第二回は、戦争の悲劇を乗り越え、遅く生きた女性、村岡弥栄子の物語――。

弥栄子の空 四

（前回まで）弥栄子の最初の夫・満雄この夢のような新婚生活は半年後、満雄の入隊で破られた。夫の出征後、父母のいる港区天保町に身を寄せたが、昭和二十年の大空襲、疎開生活、そして終戦を経て夫は戻らなかった。昭和二十三年に届いた公報でようやく夫の戦死を知った弥栄子は氣力を振り絞り、父母や子供のため失対事業でモッコを担いだ――

母は「二人娘にこんなことをさせて……」と嘆いた。が、「生きていくためや。何が恥ずかしい」と却って氣をふるい立たせた。生きていくため、子供のためとはいえ、不自由なく育った自分にこんな遅いさが宿っていたのかと、弥栄子には不思議だった。現場では、并当もな

い人に皆で分けてあげたり、空腹で動けない人の仕事を皆で片づけてあげたりと、貧しい者どうしの助け合い、心のつながりがあった。つらい記憶よりも、楽しく活気にあふれた光景が今でも弥栄子の心には残っている。

そうして三年近く働いた昭和二十八年初め、仕事先の現場で知り合った男性、村岡一二と再婚した。翌年には次男が生まれ、家族は六人になった。

しかし約十年後から、夫は結核のような症状で入院を繰り返すようになった。北千島での軍隊生活で極限の飢えを経験してきたという夫の体は結婚当初から既に精気を欠いており、戦後の肉体労働の積み重ねがそれに駄目を押したようだった。

弥栄子は再び働きに出た。「もう頑張ってくれ



た。あととは任しときー」。病院のベッドで力なく笑いかける夫を、仕事の行き帰りに何度も言うって励ましたことか。子供らが「高校やめて働こか」なことを言ってきたが、「あかん、高校くらい出な」と叱りつけた。そうして息子らを巣立たせ、父母を見送ったあとの昭和五十九年、夫は八十三歳であの世へ旅立った。

今、二人の息子は不況の中でも職を失うことなく、苦労しながらもそれぞれの家庭を守っている。弥栄子は六十歳まで働き、その後はわずかな年金をやりくりしながら、地元の老人クラブなどの活動に、近所の年寄りと連れだつて参加する毎日だ。

九十を超えた今も、これといった持病はない。月に一度か二度、三十を過ぎた孫が「おばあちゃん、元氣か」と泊りに来てくれるのが何よりの楽しみだ。発達障害とかで人との折り合いが難しく、大学を出てもまともな職につけないようだが、その代わり、今どきの若者にはない純粹で心優しいところがあるのを、「人間それが一番や」と弥栄子は嬉しく思っている。

平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

いぶし しようぞう

猪伏 昌三さん(84歳) ①



今月から、戦前・戦中の満州(現・中国東北部)で少年期を送り、特に敗戦後一年間の言語に絶する過酷な状況を耐え抜いて故国へ帰着き、戦後は米穀業などを通じて日本の復興に尽

くし、さらには阪神大震災による惨禍をも潜り抜けられた猪伏昌三さん(84)。(元・田中2丁目住民)に、その苦難の体験を語って頂きます。自身の回想録『平和の空下 永遠に』(今年四月発行)から本紙が抜粋・再構成しました。

北朝鮮から満州・延吉へ

軍国少年に神風吹かず

北朝鮮で生を受けた私は、旧・満州国間島省(現・中国延辺朝鮮族自治州)の国境の町・図們市と州都・延吉市で、異民族と共生しながら幼年期・少年期を過ごし、成長しました。が、軍国主義の横暴は現地の人々に多大な犠牲と苦難をもたらし、その反動は敗戦を境に報復の塊となって現地の日本人を襲いました。その渦中を一途に生き延びた自分にとって、それは生涯忘れ得ぬ艱難辛苦の体験でしたが、片や被害を受けた現地の人たちと同じく、決して心の内より消し去れぬ悪夢のとき二齣であったと思われまふ。将来、同じ轍を踏むことがあってはならないと強く願つと共に、今、平和な世で生き

←満州で拡大する戦火(写真は昭和7年1月3日、錦州を無血占領する日本軍)



永らえていることへの感謝を片時も忘れてはいけないと肝に銘じております。

かくして私が歩んできた道程を今一度振り返ることで、次世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継ぐことになれれば願ひ、ここに拙い

筆を執った次第です。

◆大戦への足音の中で生まれる

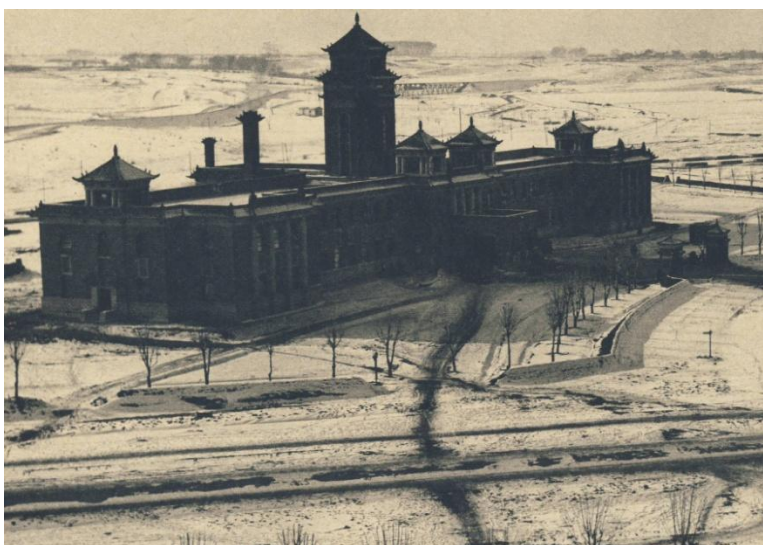
私は昭和四（一九二九）年三月、朝鮮半島東部の港町・元山市ウォンソンに生まれました。この頃の朝鮮半島は明治四十三（一九一〇）年の「韓国併合」で日本の領土となっており、この地の発展を見越して徳島県から渡ってきた祖父が造り酒屋を営み、父がそれを継いでいました。

因みにこの年、ニューヨーク株式市場の大暴落で世界恐慌の幕が開き、国内では関東軍の石原莞爾かんじが「近い将来、日本とアメリカが人類最後の戦いを行う」との予測を発表、大戦への足音が国内外で不気味な高まりを見せていました。そつした流れの中で昭和六（一九三一）年には「満州事変」が勃発、翌年から「満州国」建設が始まる。父は新天地への進出を決意、朝鮮に近い国境の町・図們市トゥメンに居を構え、そこで造り酒屋を始めました。

◆戦火拡大の中、図們から延吉へ

五年後の昭和十二（一九三七）年夏には盧溝橋きやうきうでの発砲事件から日中が全面戦争に突入。その半年後の昭和十三（一九三八）年月、私

←戦火拡大の中で始まった「満州国」建設（写真は昭和9年1月、新京に完成した政府庁舎）



が図們小学校三年生の冬、中国人の家から出た火事で我が家は全焼。略奪もあって家財の大半を失いました。四十一歳の父は再起を図って延吉市インチの運送会社に就職し、その年の九月に家族で転宅しました。

延吉は図們から二十数km西にあり、北南・東の三方を山に囲まれた盆地で、西から東へフルハト河が流れていました。市内には広大な農地と共に、官庁や学校、兵舎、刑務所、公園や神社、日本人墓地などが点在。これから発展していくであろう新興都市の勢いが感じられました。この地で私は延吉小学校に通いましたが、五年生だった昭和十四（一九二九）年には満州とソ連の国境付近のノモンハンで日本軍がソ連軍と衝突して大敗する事件があり、戦火はますます広がる様相を見せていました。その翌年には兄と祖母が相次いで他界、家族は父母と私と妹四人と従弟一人の八人になりました。

◆「大東亜戦争」はじまる

昭和十六（一九四一）年四月、私は延吉尋常高等小学校高等科に入学。その年の十一月八日、日本は遂に米英両国に宣戦を布告、いわゆる「大東亜戦争」が始まりました。私たちは開戦と共に飛び込んだ「真珠湾攻撃に成功」「シンガポール沖で英国戦艦プリンス・オブ・ウェールズ、巡洋艦パルスを撃沈」などのラジオ報道に小躍りして喜んだものでした。

昭和十七（一九四二）年四月、延吉中学校

（後に延吉市が「間島市」と改名されたこと）に

かんどう

伴い「間島中学校」と改名し入学。開校式ではみな戦闘帽をかぶり、国防色の制服にグートルを巻き、予備軍のような出で立ちでした。校

訓には「間島」の地名に因んで「敢闘、敢闘、又敢闘」、生徒訓には「皇国御民タルベシ」興

亜ノ礎タルベシ」などであり、開校式歌には

「東亜の聖戦」「大和男子」、校歌には「報国」

「東洋制覇」などの文字が躍っていました。戦

う気力は弥が上にも高まり、以後、日を追って

軍国中学生へと仕立て上げられていくことになりました。

◆戦争一色の学校生活

授業内容は戦争を賛美するものばかりで、学校といつより戦闘員の養成機関のようでした。

毎朝の朝礼では神棚と天皇陛下の写真に「拝

礼」し、教育勅語を「拝読」し、明治天皇の歌

を「朗詠」しました。それでも昭和十七年ごろまではまだ戦勝報道に酔いながらの学校生活で

したが、戦局が厳しくなるにつれて華々しい戦果は伝えられなくなり、校内の雰囲気は次第に

←間島市（延吉市）近郊の森林地帯での冬季の

伐採風景（昭和12年頃か）



緊迫を増していきました。

「戦陣訓」は読むだけでなく暗誦するように

なり、軍事教練では銃剣術の訓練が始まりました。壕掘りへの動員や一日入隊、予科練や少年兵の募集も行なわれました。また毎月のように映画鑑賞に出かけ、その画面から流れる軍歌の

勇壮な調べに「報国」の意識はさらに高揚されていきました。

冬季には気温がマイナス十五度にも下がりましたが、一時限目には上半身裸になり、市内を駆け足で一周しました。これは教練の中でもかなり酷でしたが、教官が鼻水を手で拭いながら先頭を走って行くので、不平・不満を口にする者は誰もいませんでした。その一方で英語の授業は「敵国・鬼畜米英の言葉をなせ習うのか」という疑問から生徒の間に勉強する気が起らず、騒いだりして授業になりませんでした。

昭和十九（一九四四）年には「弥栄村」に動員されての勤労奉仕が始まり、銃後の守りとして農作業にも従事しました（私は肋膜炎患っていたので免除されましたが）。生徒に対する兵役の募集も始まり、私たち一期生五十五人から七人が予科練に、一人が陸軍少年兵に志願、計八人が内地の軍隊へ入隊していきました。

◆陸軍士官学校を卒業

昭和十九（一九四四）年十一月、陸軍士官学校航空科の募集があり、陸軍記念日生まれで、「いつか志願してお国のために死なへしたい」と

考えていた私は迷うことなく応じました。同級生七人が受験しましたが、戦局の厳しさもあってか、筆記試験はなく、内申書だけで選考したようでした。

幸い私だけに「一次試験合格」の連絡が入り、翌年二月、一次試験の会場である牡丹江市の陸軍病院へ向かいました。身体検査では身長、体重、胸囲、脈拍、心電図、採血、血沈、握力、レントゲン撮影、視力、眼底等々、克明に調べられ、最後に飛行機乗りとしての適応能力が試されました。回転椅子に乘せられて回されたあと、すぐに直立不動の姿勢が取れるか、というテストでした。

一切が完了し、他の者は全員合格のようでしたが、私一人だけが医務室へ呼び出されて再度検査をした結果、「乾性肋膜炎」と診断され、「不合格」の宣告。暗澹たる気持ちで帰路に就いたのを覚えています。

当時、我が家は六年前の火事で財産を失ったことが尾を引いて経済的に厳しく、中学校での剣道員の胸は皮でなく、竹を皮紐で繋いだのを着用していたため、試合で胸を打たれた時に、

←戦前の四平街。間島中学校の同級生たちが学徒動員で松根油への使役に向かった町だ



皺って脇腹へ食い込み、その衝撃が「肋膜炎」になったようでした。

◆一気に緊張高まる

ともあれ四月には四年生となり、学徒動員令で全員が四平街へ使役に向かうことになりました。

た。私は病後のため免除されましたが、同級生は第三八部隊の陸軍燃料廠に配属され、燃料事情が逼迫しているということで松根油の製造に従事。その後、下級生も動員され、東満（満州東部）の開拓団へ参画して行きました。

一方、戦局は好転することなく、敗色はいよいよ濃くなっていきました。が、私たちは「神風が吹く」ことを信じ、また「そうなるてほしい」と念願し、物資欠乏に耐え続けました。

八月に入ると広島と長崎に原爆が投下されましたが、本土から遠く離れた私たちは知ることもなく（天人の間では知られていたようでしたが）、九日に突如、「ソ連が宣戦布告をした」との情報が入り、何が何だか分らないまま、一気に緊張が高まったのを覚えています。それでもなお「神風が吹く」と洗脳された頭に「皇国日本の敗戦」は絶対にありえないことでした。

しかし昭和二十（一九四五）年八月十五日。正午から流れ始めた玉音放送は、そうした幻想を根底から覆しました。そして私たちの本当の苦難はこの終戦と共に始まったのです。

三文化案内

●交通科学博物館企画展「**画かれた鉄道**」**錦**

絵・引札・双六・鳥瞰図の中の鉄道 景色

や人物、物などを人に伝える「錦絵」「引札」「鳥瞰図」などから、鉄道や乗り物をモチーフに描かれた明治初期～昭和中期の作品を一堂に紹介。錦絵（浮世絵）では「都立所別品鏡 長谷川貞信（二代）」＝写真左＝など、引札（パンフレット）では「ラムネ器機械製造会社」「諸千葉子掛物類製造卸非常勉強」など、双六では「空中汽車行双六」「世界漫遊双六」など、鳥瞰図（空から全体を俯瞰して描かれた地図）では絵師・吉田初三郎の作品など、絵葉書では同館所蔵から一



↑錦絵「都立所別品鏡 長谷川貞信（二代）」

↑収蔵資料写真展から「EF81形交流流電気

機関車」①と「EH10形直流電気機関車」②



二六本の資料を展示。五月二十八日まで開催中▽他に「収蔵資料写真展」三菱重工業寄贈車両写真より「機関車など約二十点を展示」写真右の2点。五月三十一日まで開催中▽おとし列車と貴賓室（皇族が乗る鉄道車両に関する資料を展示。七月七日まで）などの催しも▽十七時入館 月曜休館 祝日なら開館し翌火曜休、火曜も祝日なら振替休なし、春・夏休みは開館。高校生以上四百円、四歳～中学生百円。JR井天町駅すぐ。 ☎六五八一・五七七二。

●港図書館 ①図書展示「食育の本」展 六月

三十日（日）まで開催中。心豊かな食生活のため、食に関心を持つてもらえるような本を集め

て展示②おたのしみ会 毎週水曜日十五時半～

十八時じゅうたんコーナーで。幼児を対象に、

絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、

手遊びなど。申込不要③あかちゃんのおたのし

み会 毎月第一金曜日（六月は七日）の十一時

～十一時半、じゅうたんコーナーで。赤ちゃん

と保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめる

よう工夫。申込不要④図書展示「恐竜（き

よりゅう）だいすき」展 五月三十一日（金

まで開催中。大阪市立自然史博物館で特別展と

して「発掘！モンゴル恐竜化石展」が開催され

ているのにちなみ、子どもから大人までみんな

を夢中にさせる「恐竜」の本を展示▽ ☎六五七

六・一三四六。

●井天町市民学習センター・レクチュアコンサ

ート「にっぽんのうた こころのうた」 次世代

へ歌い継ぎたい日本の歌を、本格的な才へラ歌

手の歌声と共に、背景やエピソードを学びなが

ら楽しむシリーズの「回目。遊び、仕事、年中

行事など日々の暮らしと巡りゆく季節の中に生

きる歌を特集。出演はソプラノ：小梶中絵、バリ

トン：橋茂、ピアノ：金岡優子。企画・構成・司

会は太田道宏（関西フィルハーモニー管弦楽団チエロ奏者）。曲目は「竹田の子守唄」「中国地方の子守唄」「水鉄砲」「じゃばん玉」「てるてる坊主」「たなはたさま」「われは海の子」「肩たたき」「通りゃんせ」「かあさんの歌」「たき火」「お正月」「フスキー」「へチカ」「うれしいひなまつり」「村の鍛冶屋」他。六月八日（土）十五時から同センター講堂で。料金は一般千五百円（前売千二百円）、小・中学生八百円。定員百二十名（先着順）。申込は、①来館で前売チケット購入②電話予約（氏名・住所・電話番号）③インターネット予約（「いちようネット」で検索→「講座・イベント情報」→「音楽」→希望の講座を選んで申込）のいずれかで。詳細は同センター（〒552-0007 大阪市港区弁天一・二・三・七〇〇オーク2番街七階）☎六五七七・一四三〇、FAX六五七七・一四三三）へ。

●**関西フィルハーモニー管弦楽団「第248回定期演奏会」**「関西フィル合唱団発足記念飯

守、入魂のドイツ・レクイエム」と題し、ブラームが親友シューマンと最愛の母を失つ究極の



悲しみの中、ドイツ語で「あらゆる人の救い」

を呼びかける形で作り上げた名曲『ドイツ・レ

クイエム作品45』を、同楽団桂冠指揮者・飯守泰次郎（いもりやすじろう）写真右、ソプラノ・安井陽子（あゐりようこ）同左

上、バス・バリトン・山下浩司（しもたこうし）同左下、そして

今回が第一回公演となる関西フィルハーモニー

合唱団の共演で贈る。六月十四日（金）十九時か

らザ・シンフォニーホール（JR環状線「福島駅」

から北へ歩約七分）で、十八時四十分から指揮者

から北へ歩約七分）で、十八時四十分から指揮者



プレトーク。S席五千円、A席四千円、B席三千円、学生席千円（全席指定・消費税込）。☎六五七七・二三八一。

●**「芽の会」作品展** 港近隣センター（八幡屋

の絵画教室で絵を学ぶ生徒たち九人井上順子、

井上節子、中村民子、仁木公一郎、濱中和子、

林いすず、丸山和美、村古純子、村古高士さんの

風景画などを一堂に展示する恒例展。十二回

目。五月十九日（日）まで開催中。十一・十八

時みなと通の画廊「ガレリア・リバリア」で。

同画廊は平和の願いをキャンバスに込めて絵画

人生を送ってきた八幡屋の川島恵美子さん（ハ

ニ）が絵画人生の集大成や今後の活動拠点、次

世代への橋渡しの場として二〇一一年十一月才

ーブン。三先・二・三・一八（みなと通沿い、

地下鉄朝潮橋駅すぐ）、☎七五〇一・四二八八。

●**川島恵美子展** 八幡屋在住の国際的彫刻家・川

島恵美子（しまけいこ）さんの近作を一堂に。五月十五・二十五

日（日曜休廊）の十一時〜十八時半に画廊「ギ

ャルリプチボウ」（西区南堀江一・二・三・三〇

サニーストリート二階、☎六五三二・八四三六

で。川島さんは一九八二年池島生まれ。大阪芸

大美術学科卒。木、ブロンズ、鉄、ポリエチレンなどを素材に、表現の幅を広げながら、八三年から国内外で個展・グループ展を数多く開催。公共施設などの屋外や野外にも作品が飾られ、サントリー美術館などには公共コレクションとして川島作品が收藏されている。

●ガラスアート・ナカイグループ「生徒作品展」
「光と影」

ガラスアートNAOMI（磯路）など同グループの生徒作品を一堂に。二十五回目。江戸時代の手描き友禅をルーツとする新しい芸術。作品の幻想感・透明感、技法のシンプルさが人気。五月十六〜十八日の十一〜十七時（火曜休、最終日十五時まで）に池田市緑のセンター（阪急池田駅バス停③から五月丘前下車すぐ）一階ギャラリーで。花や景色など約六十点。入場無料。問い合わせ先は金元（磯路）
☎八五七六・二三四〇。

●ガットネロ

市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦由美子さんⅡ写真右上Ⅱ主宰の音楽喫茶。毎月様々な企画。①HAMORRIBEE（はもりべ）のうた★カフェ第十三回Ⅱ六月十一日（金）十五時（完売）と十九時。若手テノ



ルデュオ（中川公志・小原有貴）Ⅱ同右下Ⅱが日本の懐かしい歌を歌う（ピアノ：古谷優子）。会費各二千五百円（二飲物付、定員十五人、要予約）②クラシック・カフェ第三十三回Ⅱ六月七日（金）十九時。『ヴィオラとピアノで綴るロマン派の名曲』と題し、濱本実加（ヴィオラ）Ⅱ同左上Ⅱと宮崎剛（ピアノ）Ⅱ同左下Ⅱがシューベルト、シューマンなどを演奏。会費二千円（定員十五人、要予約）③アンサンブル・カフェ「水の風景」Ⅱ六月十四日（金）十九時



から兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホールで。「ガットネロ若手音楽家育成プロジェクト」として開催（十一回目）。歌：HAMORRIBEE（中川公志・小原有貴）、クラリネット：井上晴緒、ピアノ：南木優子、ヴァイオリン&チェロ：豊夢（木村直子・木村政雄）。一般三千円、学生千円▽ガットネロは天王寺区上本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅①出口、☎六七・〇〇二一。

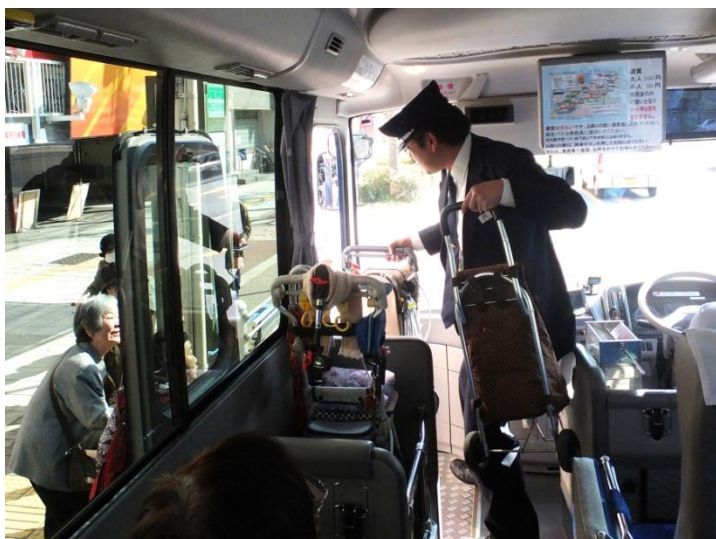
●井天町市民学習センター・井天シネマ倶楽部
『真意の決闘』

「心に残る名作映画を低料金で多くの市民に」と同センターが企画した上映会の二十八回目。保安官は無敵のヒーローという西部劇の常識を覆し、暴力を恐れる普通の人間として描いたヒューマンドラマ。監督はフレッド・ジンネマン。出演はゲイリー・クーパ、グレース・ケリー他。一九五二年アメリカ作品。モノクロ、八四分。五月十八日（土）十時と十四時から講堂で。料金は一人一回六百円。定員は各回先着百名。当日十一時半頃からロビーで無料ライブ予定。☎八五七七・一四二〇。

命綱「青バス」につながった

赤バスの存続を求める港区連絡会

事務局 大槻 一成



市が廃止した赤バスに代わり、四月から、青い「港区ループバス」が走り出しました。日に九便と減便されましたが、運行コースや停留所は（港警察・南市岡を削った以外は）赤バスとほぼ同じ。日常生活の「足」、通院の「命綱」と頼るお年寄りなど利用者は、当面の移動手段確保にひと安心、大喜びです。

◆構造上の問題で遅れや乗務員負担も

その一方で、この「青バス」は小型観光バス転用のため、①低床でない②通路が狭い③歩行補助員の収納部が三台以下④下車を知らせるブザーの押しボタンが天井にしかないーなど福祉バスとしてのコンセプトに沿わない構造上の問題があります。そのため、①乗客のかなりを占める足腰の弱い人の乗降に時間がかかる②特に歩行補助員の上げ下げには運転手さんが欠かさず手伝う③半分以上の人がボタンに届かず「次降ります」と声で伝えるーなどの光景がどの便にも生じ、ダイヤより遅れることが多くなっています。

運転手さんの親切には感動ですが、時として労働過重に見え、安全運行維持に支障が起きた

りしないでしようか。こうした問題は「公」が負つべき責任です。「運営の責任は港区と市が持つ」と明言する港区役所側が、すみやかに対応するべきでしょう。

◆きつめたのは住民・利用者の真実の声

とはいえ、昨秋、赤バス停留所へと貼られた「年度末廃止」宣言にいきなりめを強いられた中から、この「青バス」にまできつめることができたのは、多くの住民や高齢の利用者自身が交渉に出向き、「人生と赤バス」の真実の声をおそろく生涯初めて発言し、ハガキや署名に綴り、座り込みを応援し、車内や近所で声をひろげ、頑張ってきたからにはかきません。

◆区役所と受託者の誠意の対応に感謝

同時にこれは、「存廃の判断は区長に委ねる」と責任を振られた区長が、運行機能を持たない港区としては「委託」しかなかったにせよ、区民の声に対応し、「地域にとって真に必要な移動手段の確保」と「実情を精査し、赤バス廃止の空白をつくらない代替手段の検討」を約束して導き出した決断であり、それが港区役所の工夫と区長の「公募型プロポーザル」という手法を

→4月から走り出した「青バス」。利用者には「命綱がつながった」とひと安心。歩行補助員の上げ下げの困難な問題も

生み出したのでしよう。

その公算期間のなか、二月一日の区長の協議で、私たちの会が「委託で港区役所宮の」と。それは公算ですか、民営ですか」と問いつく区は「公算です。運営責任は港区役所と市が持ちます。運行業務だけの委託です」と明快に答えました。もちろん業務を受託された日本交通株式会社のおかげの「青バス」であることは言うまでもなく、心から感謝です。同時に「赤バスの代替」にふさわしく『赤バスの「コンセプト」(別掲)が守られるよう願わずにおられません。

◆来年度以降はへらひの「足」に大問題

さて「青バス」の委託は一年間限りです。その先はひづなるのでしうか？

港区役所はすでに二月の「区政会議」に、大阪市が「バス事業民営化基本方針(案)」(二月二十日)で示した「港区 平成二十八年以降路線案(案)」(下図)を提示しています。

図を見て下さい。黒の太い実線を現行の「青バスルート」に見ると「地域サービス系路線(路線番号44番(ういすのういす))」これでは波除エリアはほぼ田舎な、八幡屋・池島エリアから



は区役所など中心部につながらない「路線」となり、港区の生活用路線としては(事業系・民営化路線と通勤用路線を除けば)結局、これだけが残ることになります。

考えてもみて下さい。港区役所が「公算」条件の資料に提示した赤バス港ループ「乗降人員集計(終日OD表)」によって、「波除エリアが利用が最も多く」「八幡屋・池島エリアは80の字状に

結び交点に区役所など区中心部が位置していることが双方向の役割も兼ね、最も重要な利点となっている」実情が明らかにされたばかりではありませんか。その実情を踏まえ、「地域にとって真に必要な移動手段」として導き出した「青バスの現行」コースは、たった一年で、また別の「真に必要な手段」として、最重要部をハッサリ削ったコースが押しつけられるのでしうか。

◆現行コースを確保、公的責任の拡充を

これは結局、市交通を解体して民営化を強行し、その妨げとなる「採算性の困難な」(だからこそ公算の責務で運営すべき)赤バスや生活のための市バス路線を駆逐してしまうという狙いのあからさまな案といつほかありません。

私たち「赤バスの存続を求める港区連絡会」は、来年度以降も最低限、「青バス」の現行コースを確保し、(八幡屋郵便局前に停留所を設置するなど)改善と利用促進をはかり、「赤バス」復活と公共交通の公的責任の拡充を求めて力をつくします。

市交通の解体と民営化に反対し、拙速な民営化決議の阻止に力ををわけてしう。

←「赤バスの代替」として導入された「青バス」。
赤バスと同じ役割・コンセプトが求められる



〈資料〉

1、大阪市の赤バス導入時のコンセプト（基本の考え）

地域に密着したバスサービスとして、通勤・通学とは異なる日常的な移動ニーズ（買い物、通院、行政手続きなど）に対応する

①路線・運行ルート

- ・福祉・公共施設、商店街、病院など、地域住民の日常生活に密着した施設を連絡
- ・地域内での移動利便の向上を図るため、原則、行政区内で完結
- ・バスサービスの重複を避けるため、一般バス等との並行区間を少なく設定

②乗車料金

- ・わかりやすく、気軽に利用いただけるよう、大人100円（小児50円）

③停留所

- ・停留所間隔については、一般バス（約400m）よりも短い間隔（赤バス単独区間は約200m）をめざす

④使用車両

- ・高齢者や車いす利用者も楽に乗降できるように、フルフラットタイプの小型ノンステップ車両を使用

2、大阪市「ミニミニ」系バス運営費補助金交付要綱

（目的）

第2条 この市補助金は、大阪市の総合交通体系の確立を目指す中で、十分な需要がなく、採算性の確保が困難であるものの、地域住民の日常生活に必要な乗合バスサービスについて、その運行に必要な経費の一部を助成することによって（中略）市民の利便向上及び福祉の増進に

←2002年から「福祉バス」として活躍してきた「赤バス」（上は旧型、下は新型）



寄与することを目的とする。

※大阪市のこの要綱に基づいて、今年三月まで赤バスに補助金を交付してきました。この公営公共交通ならではのコンセプトを「青バス」にも、その先にも引き継いでほしい。

**今のうち
聴いておころ
親の歴史!**

お話をききとり、冊子
にしてお渡しします。

母は西区に生まれ、結婚して4人
を生みましたが、1人は腕夷弾で
即死しました。満州から帰還した
父は34歳で病死。母は飲食店を営
みながら私達を育ててくれました。
今92歳ですが、そんな半生を冊子
にして頂き、「いつ死んでもええ」
と言んでいます。（70代女性）

400字（原稿用紙1枚）で
千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636